

使い方の手びき

plaire 900
スーパー電子ミシン
プレール

ご使用前に、この取扱説明書を十分、お読み下さい。

この取扱説明書はお使いになる方が、いつでも見られるところに保管して下さい。

安全にご使用いただくために

このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを守って下さい。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY



警告 感電、火災の恐れがあります

1. 一般家庭用交流電源100 Vでご使用下さい。
2. 以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いて下さい。
 - ・ミシンのそばを離れるとき
 - ・ミシンを使用したあと
 - ・ミシン使用中に停電したとき



注意 感電、火災、けがの原因となります

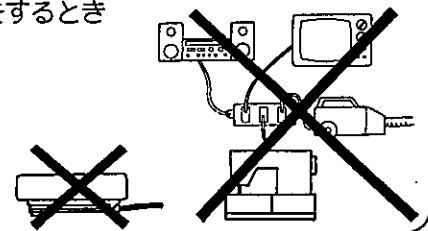
1. フットコントローラーの上に物を乗せないで下さい。
2. お客様自身での分解、改造はしないで下さい。
3. ミシンの操作時は、ベッドふた、面板などのカバー類を閉じて下さい。
4. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないで下さい。

5. 曲がった針はご使用にならないで下さい。
6. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないで下さい。
7. お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意して下さい。
8. 以下のことをするときは、電源スイッチを切って下さい。
 - ・針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき
 - ・上糸、下糸をセットするとき
 - ・ランプを交換するとき(ランプが冷えてから行って下さい)
 - ・取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき
9. ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店にて点検、修理、調整をお受け下さい。
 - ・正常に作動しないとき
 - ・落下などにより破損したとき
 - ・水に濡れたとき
 - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき
 - ・異常な臭い、音がするとき

○おとり扱いについてのお願い

★より安全のために……

- ①ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れなでください。
- ②つぎのようなときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - 針の周辺でいろいろな作業、たとえば糸通し、針の交換、下糸交換などの作業をするとき
 - 使用後
 - ミシンのそばをはなれるとき
 - 部品をつけたり、はずしたりするとき
 - ミシンの手入れをするとき
- ③コントローラーの上には、物をのせないでください。
- ④たこ足配線は、危険ですからやめましょう。



★ご使用前に……

- ①ほこりや油などで縫う布を汚さないように、使う前にミシンを乾いたやわらかい布でよくふいてください。ポータブルケースのよごれは、中性洗剤などで軽くふきとります。シンナー、ベンジン、みがき粉は絶対に使用しないでください。
- ②ミシンのセットや、押え、針を交換するときは、この《使い方の手びき》や早見板を見て、正しく、確実にセットしてください。
- ③ミシンをセットしたら、実際に縫うものと同じ布や糸で試し縫いをしてみましょう。

★いつまでもご愛用いただくために……

- ①長時間日光にあてたり、ストーブのそばに置いたりしないでください。
- ②湿気の多いところはさけてください。
- ③落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

●修理、調整についてのご案内

万一不調になったり、故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(51～52ページ)により点検・調整を行ってください。それでも調子が悪いときは、お買い上げいただいた支店、または近くの支店へご連絡ください。

●このミシンは、日本国内用に作られていますので、外国では使用できません。

(This sewing machine can not be used in foreign country as designed for Japan only.)

目次

- 各部の名まえ…………… 4
- 補助テーブルのはずし方、つけ方…………… 5
- 小物入れ…………… 5
- 押えと付属品…………… 6

操作をおぼえましょう

- 電源をつなぎましょう…………… 7
 - ★ スタート・ストップボタンを使用する場合…………… 7
 - ★ コントローラーを使用する場合
(コントローラーは別売品)…………… 7
- スタート・ストップボタン…………… 8
- 速度の調節になれましょう…………… 8
 - ★ スピードコントロールつまみ…………… 8
 - ★ コントローラー(別売品)…………… 8
- 上下停針ボタン…………… 9
- 返し縫いボタン…………… 9
- ランプのとりかえ方…………… 9
- 押え圧ダイヤル…………… 10
- ドロップレバーの使い方…………… 10
- 押えのとりかえ…………… 11
- 押えホルダーのはずし方、つけ方…………… 12
- 送りジョーズの使い方…………… 13
- 針のとりかえ…………… 14

- 下糸の準備をしましょう…………… 15~17
 - ★ ボビンをとり出します…………… 15
 - ★ 糸こまをとりつけます…………… 15
 - ★ ボビンに糸を巻きます…………… 16
 - ★ ボビンをかまにセットします…………… 17
- 上糸の準備をしましょう…………… 18~20
 - ★ 上糸を掛けます…………… 18
 - ★ 糸通しを使って針に糸を通します…………… 19
 - ★ 下糸を引きあげます…………… 20
- 布に適した糸や針を選ぶ目安…………… 21
- 糸調子を合わせましょう…………… 22~23
 - ★ 自動糸調子…………… 22
 - ★ マニュアル糸調子…………… 23
 - ★ 上糸が強すぎる時…………… 23
 - ★ バランスのとれた糸調子…………… 23
 - ★ 上糸が弱すぎる時…………… 23
- 振巾スライドつまみ…………… 24
- 送りスライドつまみ…………… 24
- 模様選択ダイヤル…………… 25
- 直線縫いの針落ち…………… 25
- 針板ガイドラインの利用…………… 25
- 直線縫い…………… 26~27
 - ★ 縫いはじめ…………… 26

- ★ 縫い方向をかえるには…………… 26
- ★ 縫いおわり…………… 27
- ★ 厚手の布端の縫いはじめ…………… 27

実用縫いいろいろ

- ジグザグ縫い…………… 28
- ジグザグ縫い裁ち目かがり…………… 28
- かがり縫いステッチ…………… 29
- トリコット縫い裁ち目かがり…………… 29
- 直線三重縫い…………… 30
- 直線状伸縮縫い…………… 30
- オートボタンホール…………… 31~33
- マニュアルボタンホール…………… 34~35
- 芯入りボタンホール…………… 36
- ボタンつけ…………… 37
- ファスナーつけ…………… 38~41
 - ★ ファスナー押えのつけ方…………… 38
 - ★ 準備…………… 38
 - ★ 縫い方…………… 39~40
 - ★ コンシールファスナーつけ…………… 40~41
- 三つ巻き縫い…………… 42
- くけ縫い(まつり縫い)…………… 43

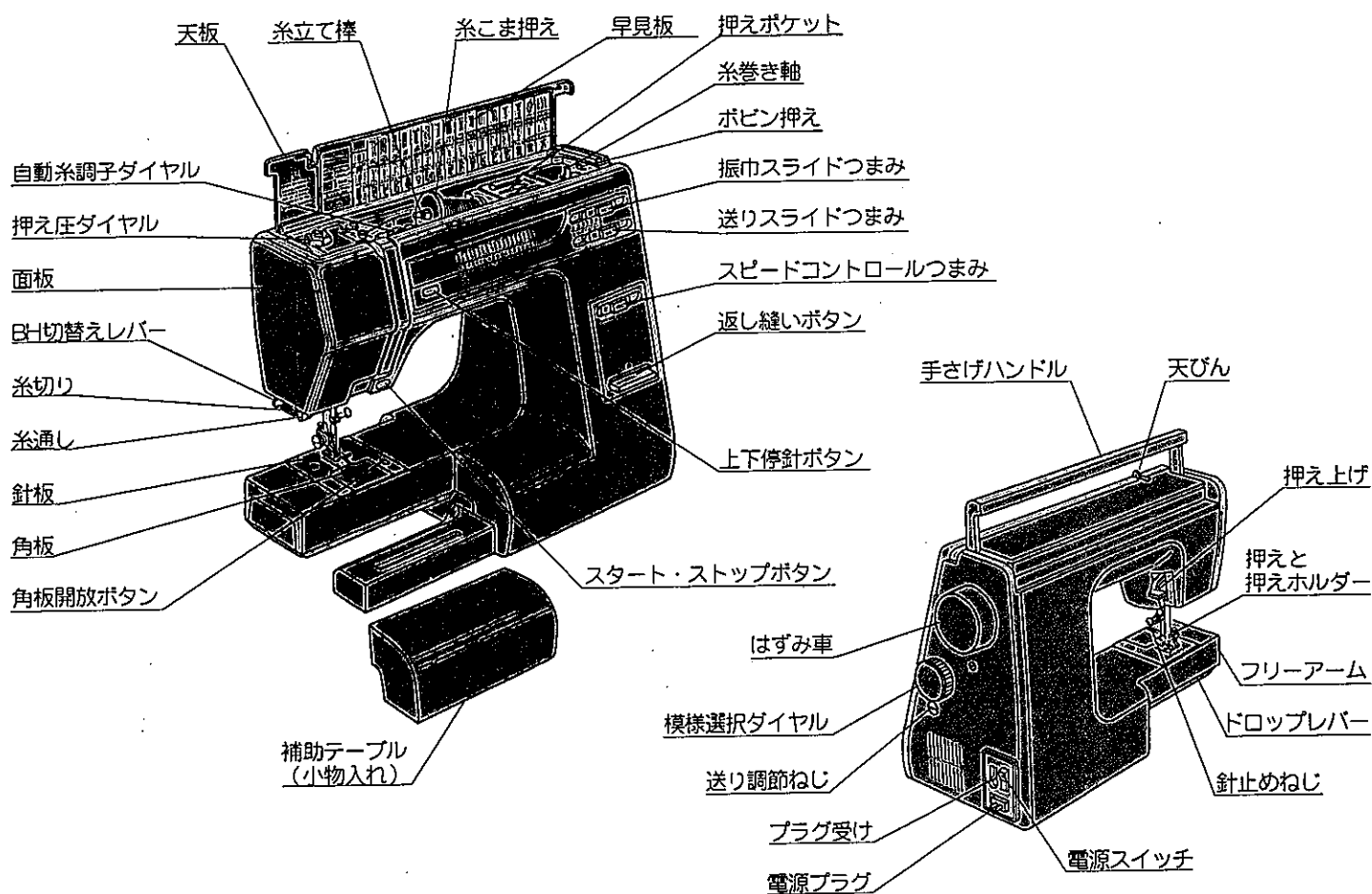
応用縫いいろいろ

- スーパー模様縫い…………… 44
- スーパー模様の形の整え方…………… 44
- 密着模様縫い…………… 45
- スモッキング…………… 45
- キルティング…………… 46
- ピンタック…………… 46
- アップリケ…………… 47
- パッチワーク…………… 47
- シェルタック…………… 48
- ファゴティング…………… 48

ミシンの手入れと調整

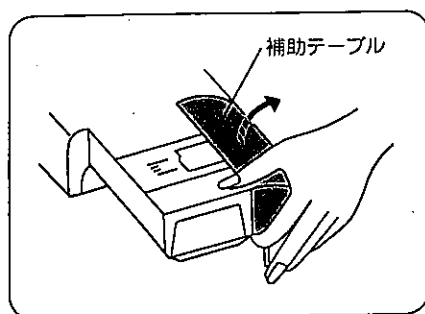
- ミシンの手入れ…………… 49~50
 - ★ かまの掃除…………… 49
 - ★ かまの分解…………… 49
 - ★ かまと送り歯の掃除…………… 50
 - ★ かまの組立て…………… 50
- ミシンの調子が悪いときの直し方…………… 51~52

○各部の名まえ



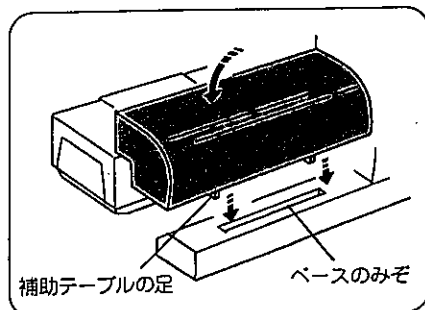
4

○補助テーブルのはずし方、つけ方



《はずし方》

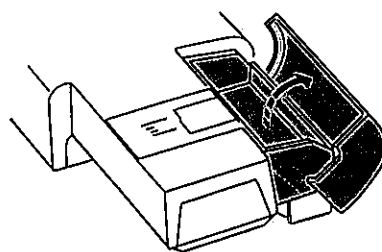
補助テーブルの下側に手をかけて持ちあげます。



《つけ方》

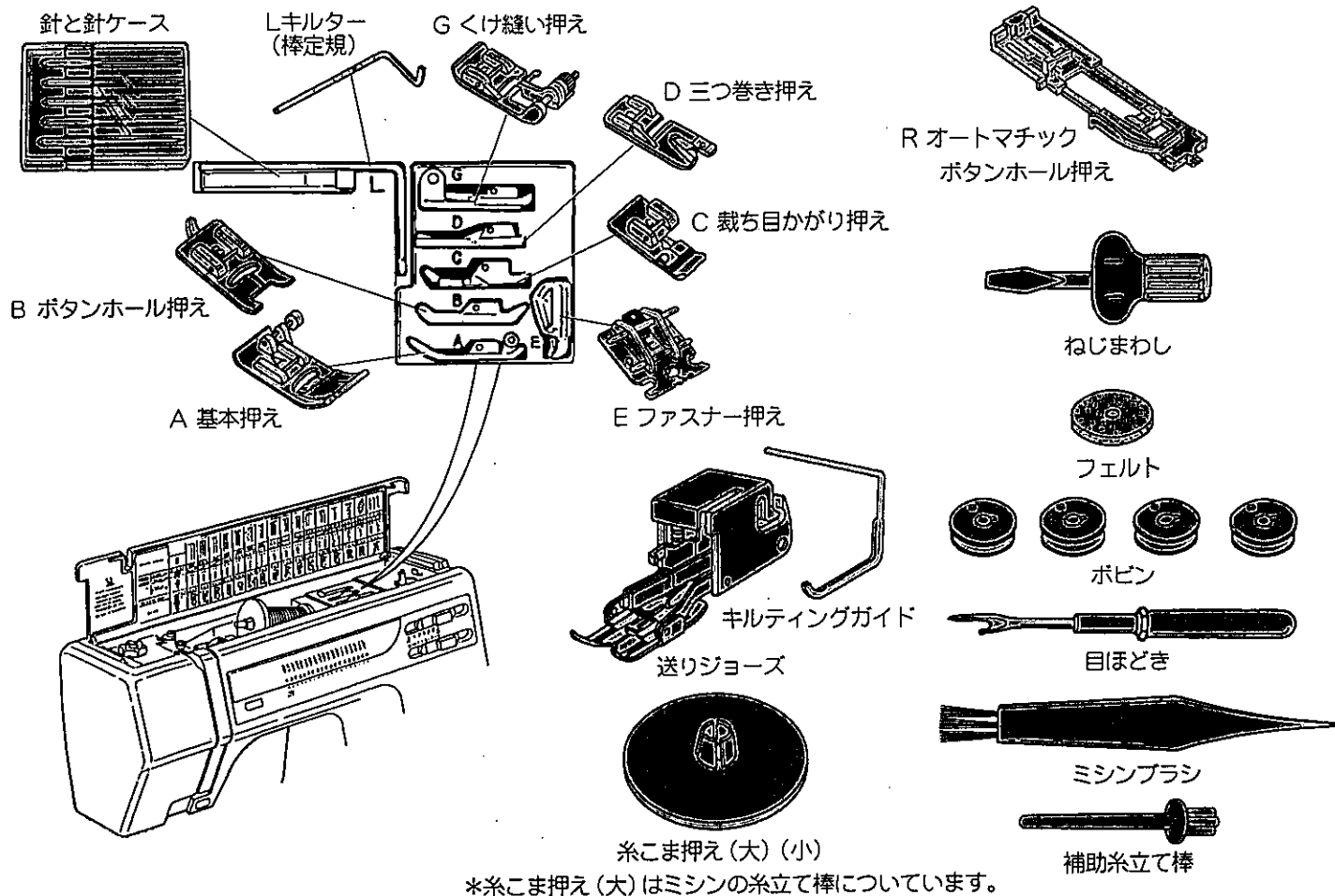
ベースのみぞに補助テーブルの足を合わせてのせ、上から軽く押します。

○小物入れ



補助テーブルをひらくと、小物入れに付属品が収納されています。

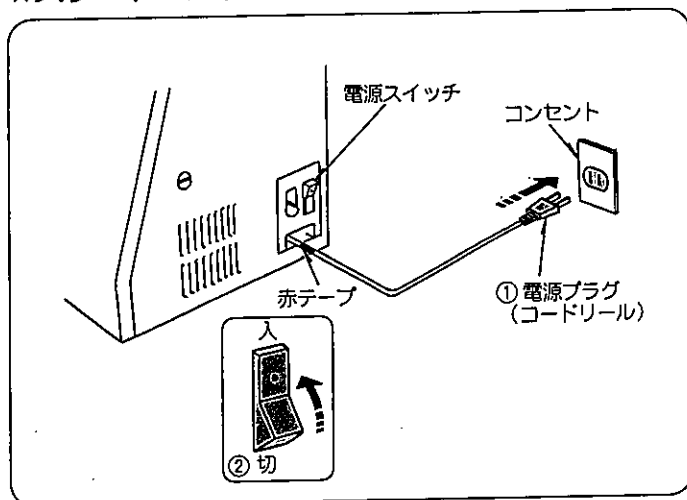
○押えと付属品



6

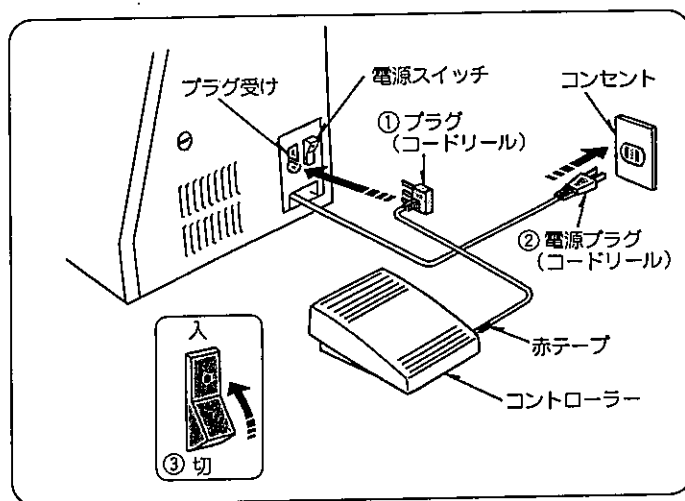
○電源をつなぎましょう

★スタート・ストップボタンを使用する場合



- ① 電源スイッチを「切」にして、電源プラグをコンセントにさしこみます。
- ② スイッチを「入」にします。

★コントローラーを使用する場合 (コントローラーは別売品)

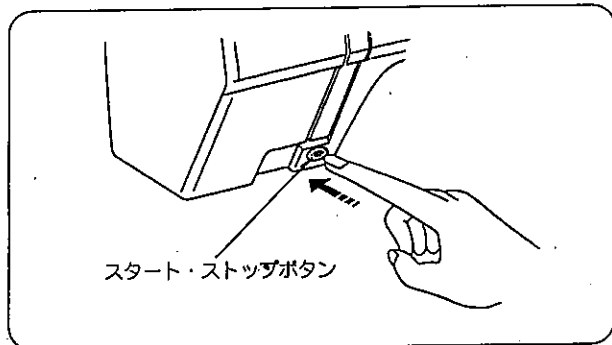


- ① 電源スイッチを「切」にして、コントローラーのプラグをプラグ受けにさしこみます。
- ② 電源プラグをコンセントにさしこみます。
- ③ スイッチを「入」にします。

- * 電源は、一般家庭用 (100V 50/60Hz) です。
- * ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。
- * スイッチを「入」にすると「ピッ」という電子音がします。
- * コントローラーを使用するときは、スタート・ストップボタンを押してもお知らせ音が鳴りミシンは動きません。使い方は8ページをごらんください。
- * 電源プラグやコントローラーのコードリールは、赤テープの印よりコードを引き出さないでください。

7

○スタート・ストップボタン



スタート・ストップボタン

ボタンを押すと、ミシンは数針ゆっくりと縫ってからスピードコントロールつまみでセットした速さで縫いはじめます。

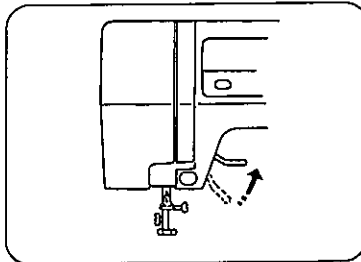
もう一度押すと、針が上の位置で止まります。ミシンが動いている間に、電源プラグが抜けるなどして電源が切れたときは、再び電源を入れてもミシンは動きません。

もう一度スタート・ストップボタンを押してください。

* スタート・ストップボタンを押すと、「ピッ」という電子音がします。

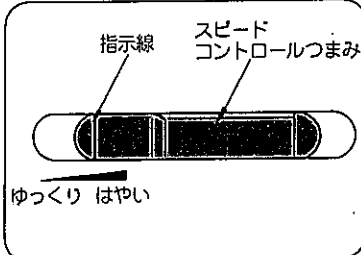
* コントローラーを使用するときは、スタート・ストップボタンを押してもお知らせ音が鳴ってミシンは動きません。

○速度の調節になれましょう



押え上げをあげて、スピードコントロールつまみやコントローラーの速さの関係になれてください。

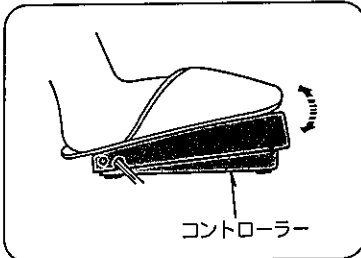
★スピードコントロールつまみ



縫う速さは、スピードコントロールつまみで自由に調節できます。

カーブや細かいところを縫うときは、低速で縫いましょう。

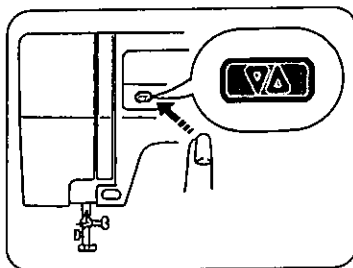
★コントローラー (別売品)



コントローラーは、深く踏みこむほど速くなります。

* コントローラーを使用するときは、スピードコントロールつまみを「はやい」にセットしてください。

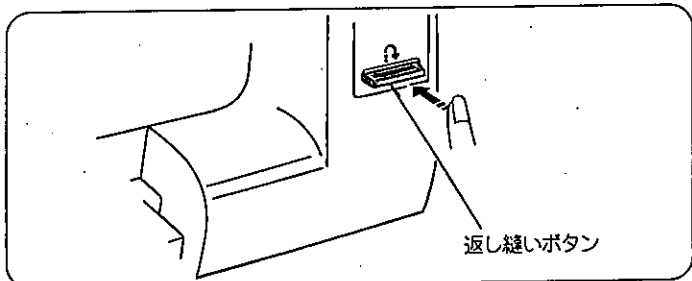
○上下停針ボタン



ミシンが止まっているとき、ボタンを押すと、針が上位置から下位置に切りかわります。もう1度押すと、上位置に切りかわります。

* 上下停針ボタンを押すと、「ピッ」という電子音がします。

○返し縫いボタン



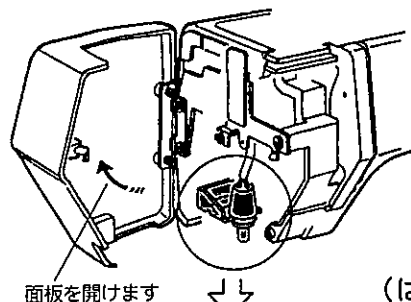
返し縫いボタン

返し縫いボタンを押すと、ミシンは低速で返し縫いをはじめ、指をはなすと止まります。

ミシンを動かしている途中で返し縫いボタンを押すと、押している間は返し縫いをし、指をはなすと、前進縫いに戻ります。針に糸を通したり、針や押えをとりかえたりするときに、不用意に返し縫いボタンにふれると、ミシンが動きだしますのでご注意ください。

* 返し縫いボタンを押すと、「ピッ」という電子音がします。

○ランプのとりかえ方



面板を開けます

(はずし方)

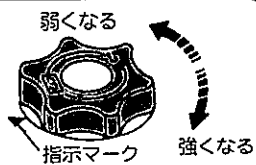
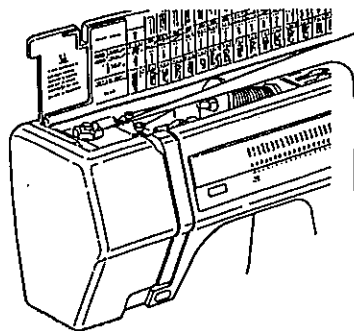
ランプソケットをはずして、ランプをそっと引き抜きます。



(つけ方)

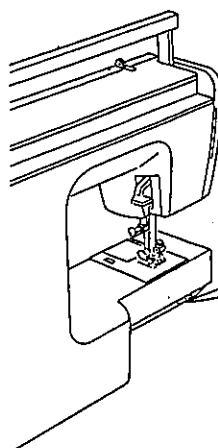
ランプのピンをソケットの穴に合わせながら、差し込みます。

○押え圧ダイヤル

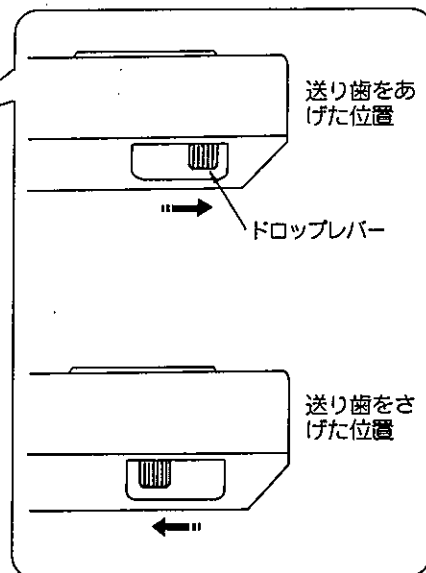


- 普通縫いのときは 「3」
- うす手の化繊地や伸縮性のある布などで縫いずれがするとき、または、アップリケなど縫いしろ部分が重なり合うとき 「2」または「1」

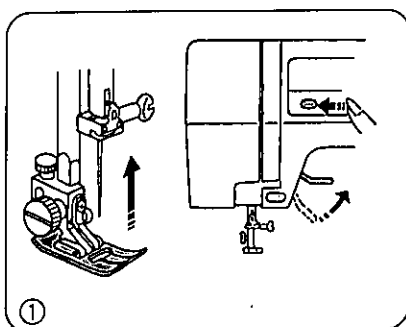
○ドロップレバーの使い方



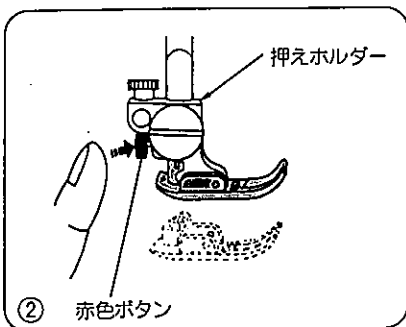
ボタンつけなどで送り歯をさげるときには、ドロップレバーを動かします。



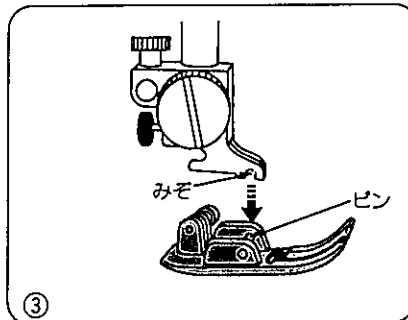
○押えのとりかえ



- ① 上下停針ボタンを押して針をあげ、押え上げをあげます。

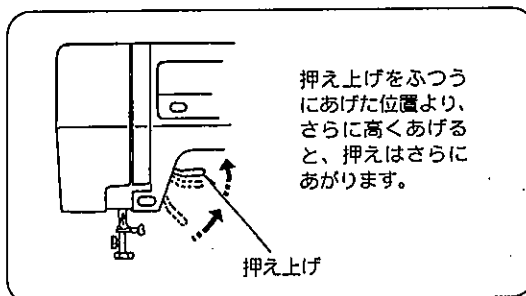


- ② 押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずします。



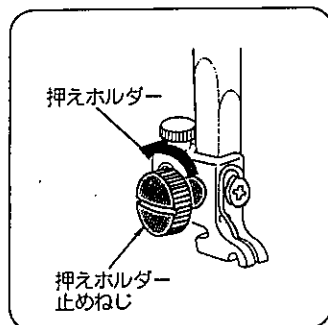
- ③ 押えのピンを押えホルダーのみぞの真下において、押え上げを静かにおろします。

《厚い布を入れるとき》



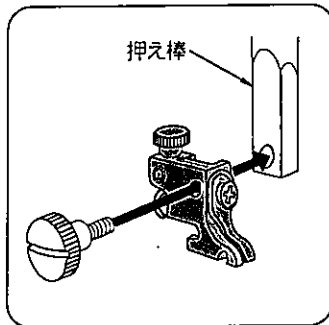
押え上げをふつうにあげた位置より、さらに高くあげると、押えはさらにあがります。

○押えホルダーのはずし方、つけ方



《はずし方》

- ① 押え上げをあげ、押えをはずします。
- ② 押えホルダー止めねじを、ねじまわして左にまわしてはずします。



《つけ方》

- ① 押えホルダーの穴と、押え棒のねじ穴を合わせ、押えホルダー止めねじをさしこみ、ねじまわして押えホルダー止めねじを右にまわして、しっかりつけます。

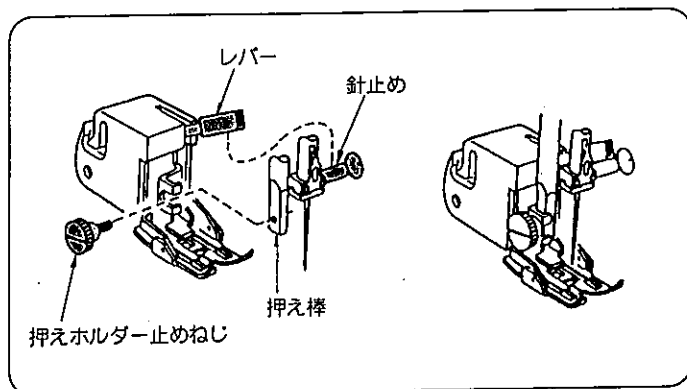
12

○送りジョーズの使い方

送りジョーズは、上下の歯で布をはさみこみながら布送りをするので、薄物、ニット地、ビニールレザー、皮革などの素材に使用すると縫いずれや縫いじわを防止するのに効果があります。

また、キルティングガイドを使って前に縫った縫い目をたどることもできます。

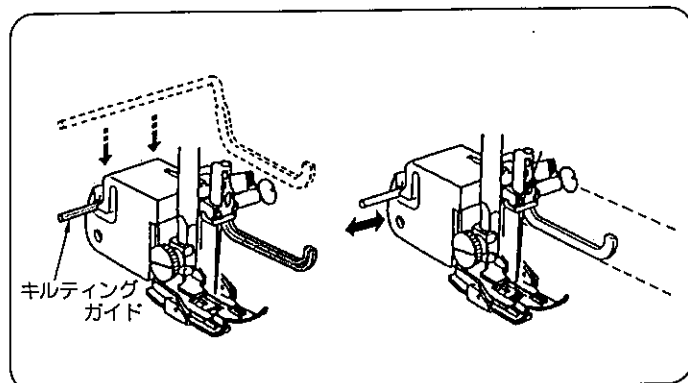
《送りジョーズのとりつけ方》



- ① 針と押え上げをあげます。
- ② 押えホルダー止めねじをゆるめて、押えホルダーをはずします。
- ③ レバーが針止めにのるように、送りジョーズを向こう側から押え棒にとりつけ、押えホルダー止めねじでしっかりとします。

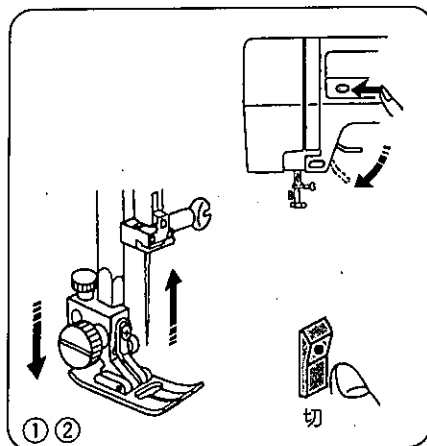
* 低速から中速くらいの速さでミシンを運転してください。

《キルティングガイドのとりつけ方》

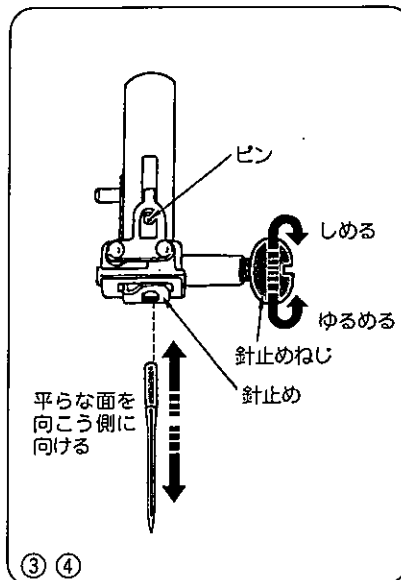


- ① キルティングガイドを上から下に向けて、押し込んで固定します。
- ② ステッチ間かくに合わせて、キルティングガイドの左右方向の位置を調節します。

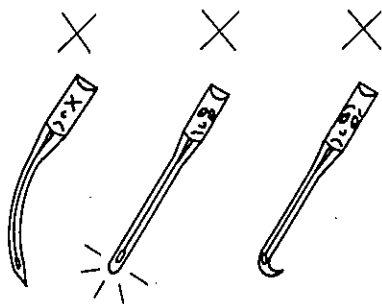
○針のとりかえ



- ① 上下停針ボタンを押して針をあげ、押え上げをさげます。
- ② 電源スイッチを切ります。

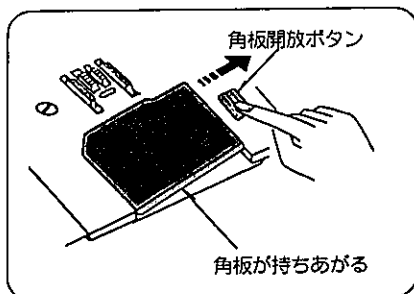


- ③ 針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針をはずします。
- ④ 針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで針止めにさしこんで、針止めねじをかたくしめます。



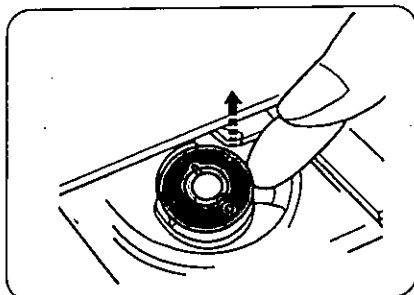
* 全体にまがってしまったものや、針先のつぶれたりまがったりしたものは、使用しないでください。

○下糸の準備をしましょう

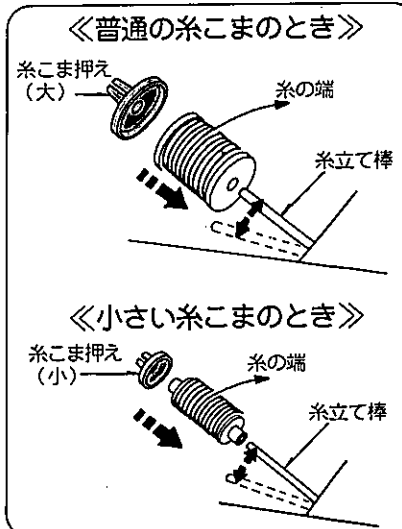


★ ボビンをとり出します

- ① 角板開放ボタンを右へずらして角板をはずします。



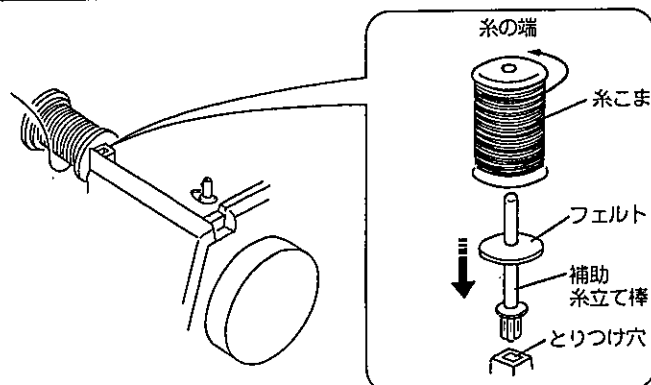
- ② ボビンをとり出します。



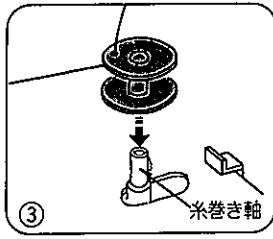
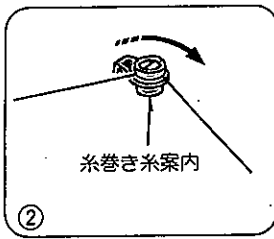
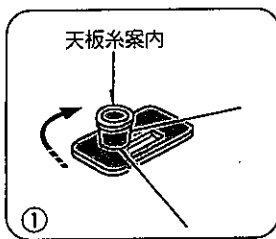
★ 糸こまをとりつけます

糸立て棒を軽くおこし糸の端が手前から向こう側に出るようにして糸こまを入れます。糸こま押えて糸こまをおさえたら、糸立て棒をもとに戻します。

* 補助糸立て棒を使うときは、とりつけ穴に立てて、糸こまをとりつけます。



★ボビンに糸を巻きます



① 糸こまから引き出した糸を、天板糸案内に掛けます。

② 糸巻き糸案内に糸を掛けます。

③ ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。

④ ボビンを、ボビン押えの方に押しつけます。
* 糸巻き軸を移動すると、「ピッ」という電子音がします。

* 糸巻き軸の移動は、必ずミシンを止めてから行なってください。

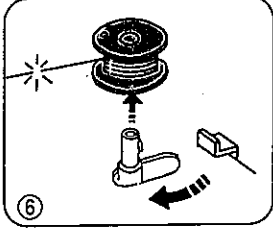
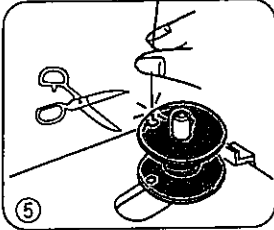
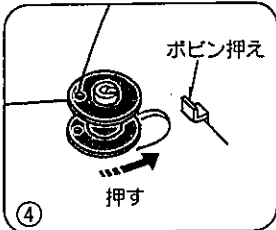
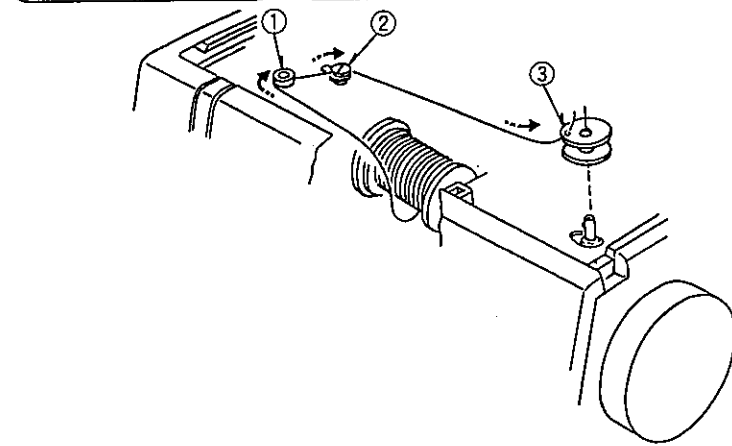
⑤ 糸の端をつまんだまま、ミシンを動かしてボビンに糸を巻きはじめます。三重ぐらい巻きついたら、いったんミシンを止めて糸を切ります。

* スタート・ストップボタンを使用する場合には、糸巻き速度は、スピードコントロールつまみで調節できます。(中速からはやいの間でご使用下さい)

* コントローラーを使用する場合には、糸巻き速度は、コントローラーの踏み加減で調節できます。(コントローラーは別売品)

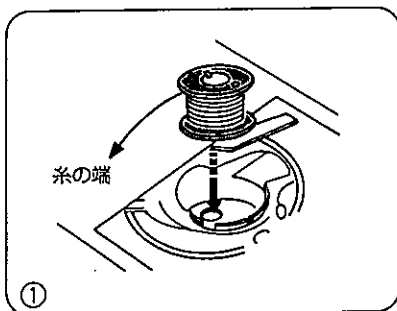
⑥ ふたたびミシンを動かして、糸を巻きおわったらボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりはずして糸を切ります。

* 糸巻き状態では、上下停針ボタン、返し縫いボタンを押しても警告音が鳴り、ミシンは動きません。

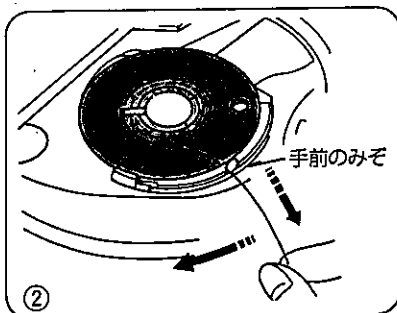


16

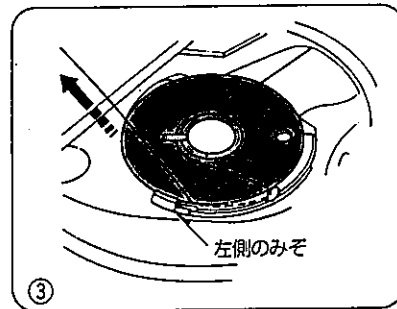
★ボビンをかまにセットします



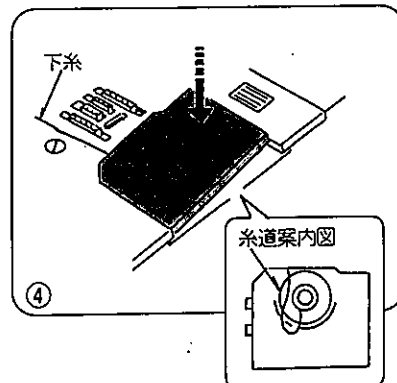
① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンをかまに入れます。



② 糸の端を引きながら手前のみぞに掛け、さらに糸を引いて、みぞの外側とばねの間を、左へ移動させます。



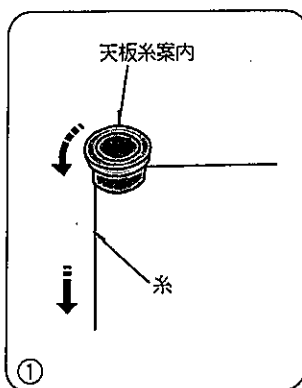
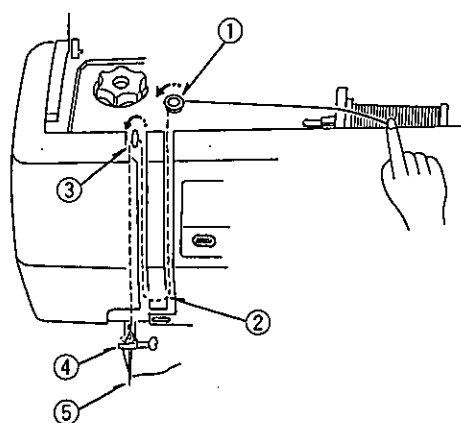
③ 糸を左側のみぞに掛けるようにして向こう側に出します。



④ 下糸は10cmくらい引き出します。角板の凸部を針板にさしこみ、上から押して角板をとりつけます。

○上糸の準備をしましょう

★上糸を掛けます



押え上げをあげ、はずみ車を手前に回し、天ピンを上部にします。

糸こまを押えながら、正しく糸を掛けてください。

① 糸こまから引き出した糸を、天板糸案内の下に巻きつけるようにして掛け、糸案内板にそっておろします。

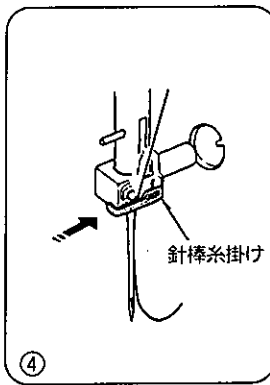
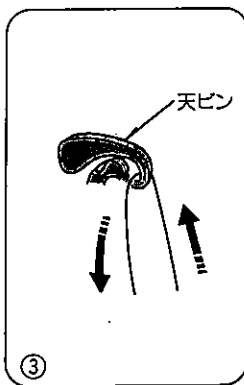
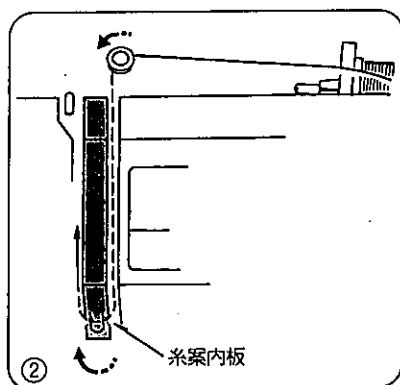
② 糸案内板の下をまわして、左上に引きあげます。

③ 天びんに、右からうしろへまわして左手前に出し、まっすぐ下におろします。

④ 針棒糸掛けに左から掛けます。

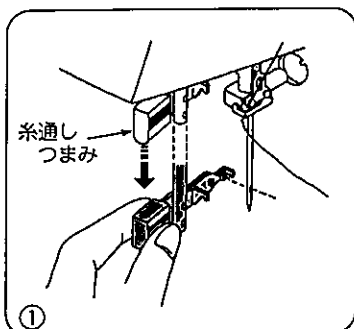
⑤ 糸通しを使って針に糸を通します。

* 糸通しの使い方は、19ページをごらんください。

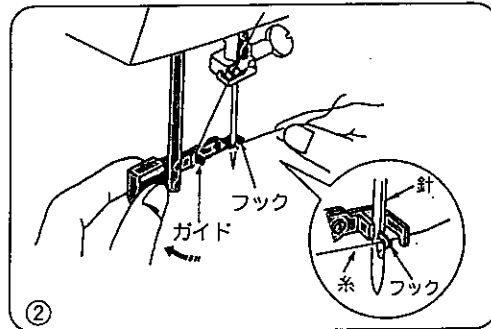


18

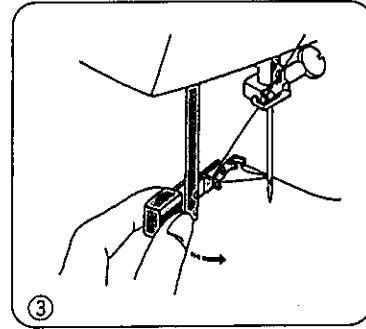
★糸通しを使って針に糸を通します



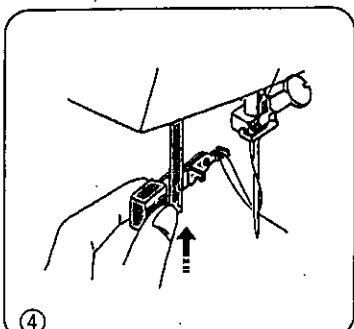
① 針を上げて、糸通しつまみを止まるまでいっぱいにさげます。



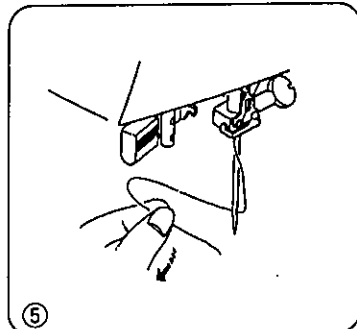
② つまみを矢印方向へまわしてフックを針穴に入れます。糸をガイドとフックに掛けます。



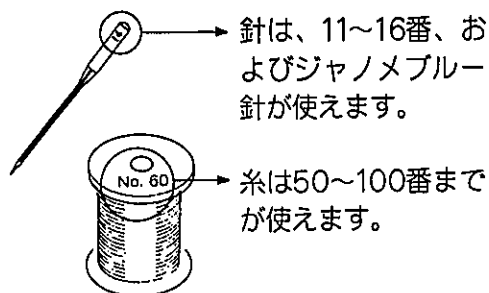
③ つまみを矢印方向にまわすと糸が輪になって出てきます。



④ つまみを静かに押し上げ、糸の輪を引きあげます。



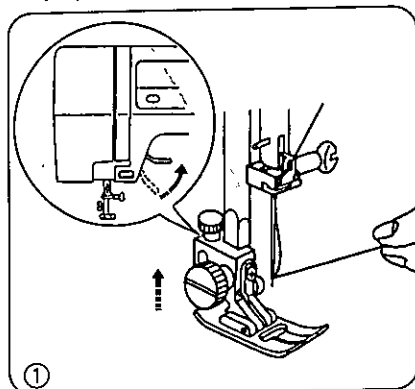
⑤ 糸の輪を糸通しからはずし、針穴から端を引き出します。



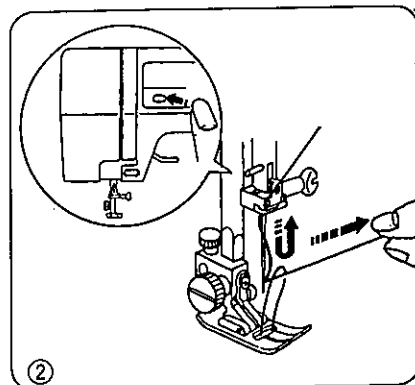
針は、11～16番、およびジャンメブルー針が使えます。

糸は50～100番までが使えます。

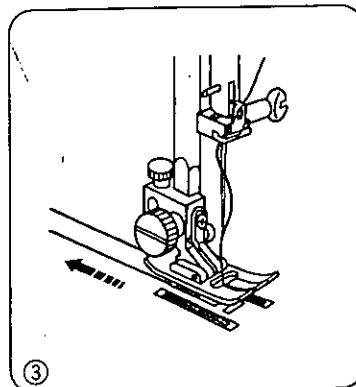
★下糸を引きあげます



① 押え上げをあげ、左手で上糸の端をつまんで、ややゆるめて持ちます。



② 上下停針ボタンを2度押して、針をあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。



③ 上糸と下糸を、押えの下から向こう側に10cmほど引き出して、そろえておきます。

20

● 布に適した糸や針を選ぶ目安

布の厚さ	布の種類				糸	針
	木綿	絹	ウール・化繊織物	ニット		
うすい布	ローン、ボイル	シフォン、ジョーゼット、オーガンジー	デシン、クレープ、モスリン	スムーズニット地、トリコット地	絹糸 80番～100番 綿糸 80番～100番 化繊糸 80番～100番	9番～11番
普通の布	ブロード、サッカー、ピケ	タフタ、ファイユ、サテン	ジョーゼット、フラノ、サキソニー	ジャカードニット地	絹糸 50番 綿糸 60番～80番 化繊糸 50番～80番	11番～14番
					綿糸 50番	14番
厚い布	デニム、キルティング、ギャバジン		ツイード、ギャバジン、コート地	ダブルニット地	絹糸 50番 綿糸 40番～50番 化繊糸 40番～50番	14番～16番
					絹糸 30番 綿糸 30番	16番

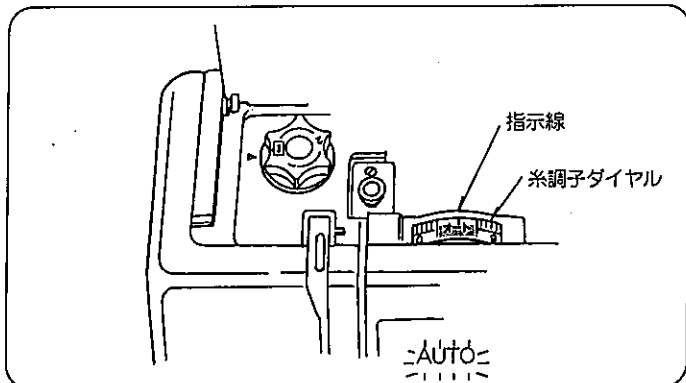
* 普通上糸と下糸は同じ糸を使います。
* うすい布には細い糸と針、厚い布には太い糸と針を使うのが原則です。
* ごくうすい布には、下に紙をしいて縫ってください。

* 針や糸は、実際に縫う布の端切れを使って、試し縫いをして確かめてみましょう。
* ジャノメブルー針は、柄の部分が青色をしています。伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や、目とびしやすい合繊や化繊の布に効果があります。

○糸調子を合わせましょう

★自動糸調子

このマシンは、糸調子ダイヤルを「オート」に合わせると、普通の縫いのときにバランスよく縫える糸調子に自動セットされます。



《バランスのとれた糸調子》

○直線縫いのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

○ジグザグ縫いのときには、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。



糸は50番～100番を使います。

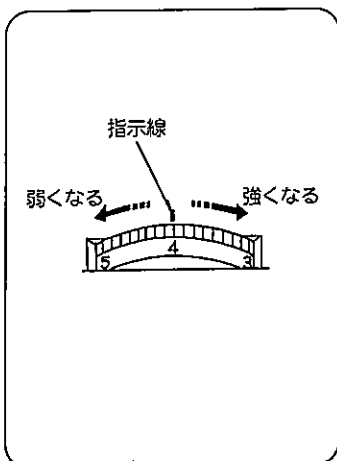
○糸調子ダイヤルを「オート」に合わせると、普通の縫いのときにバランスのよい糸調子が得られます。

○糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときは、指示してある調節範囲で糸調子ダイヤルをマニュアルで調節して合わせます。

* 糸調子ダイヤルを「オート」に合わせると、緑色のシグナルが点灯します。

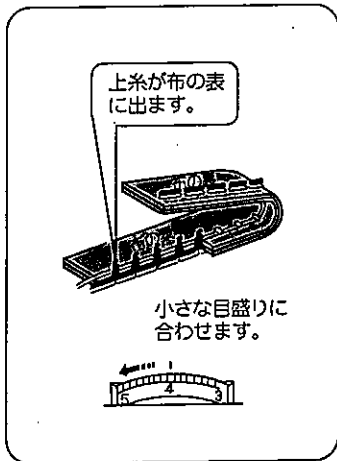
22

★マニュアル糸調子

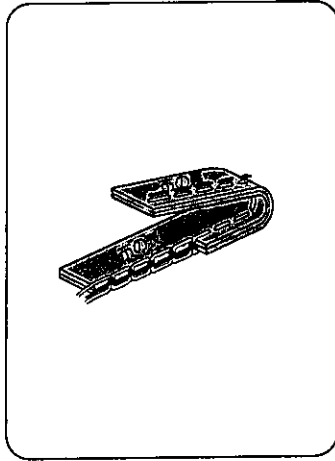


糸調子ダイヤルを「0～9」に合わせるとマニュアル糸調子となり、上糸と下糸のまじわる位置を自由に調節できます。

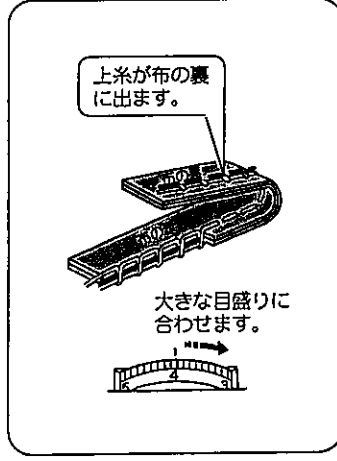
★上糸が強すぎる時



★バランスのとれた糸調子

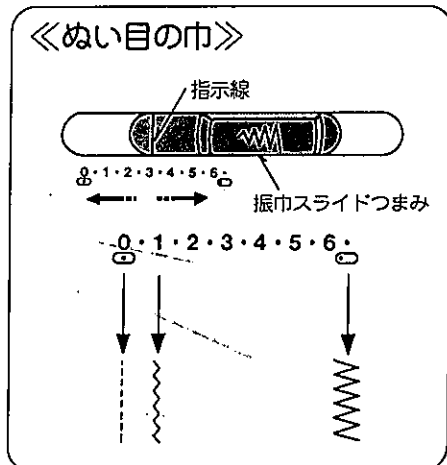


★上糸が弱すぎる時



糸調子が正しく調節されていないと、縫い目がきたなくなり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

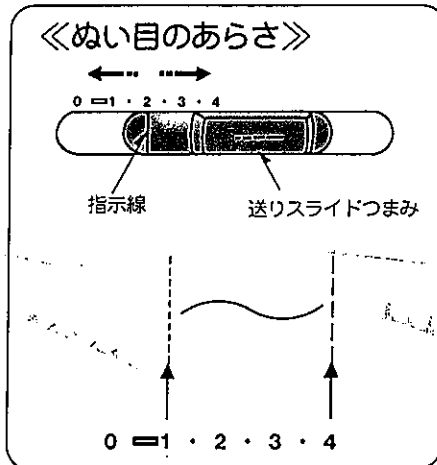
● 振巾スライドつまみ



振巾スライドつまみの指示線を目盛りに合わせます。
目盛りが大きくなると、縫い目の巾は大きくなります。

* 振巾スライドつまみを動かすときは、針を布からあげてください。

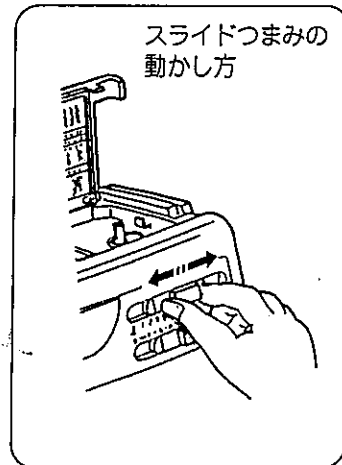
● 送りスライドつまみ



送りスライドつまみの指示線を目盛りに合わせます。
目盛りが大きくなると縫い目はあらかくなります。

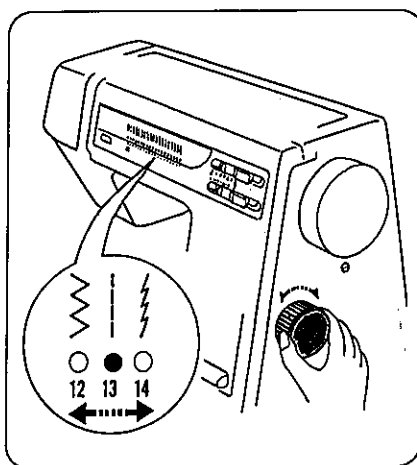
□は、ボタンホールの縫い目あらかさの調節範囲を示します。

* 送りスライドつまみを動かすときは、押え上げをあげてください。



24

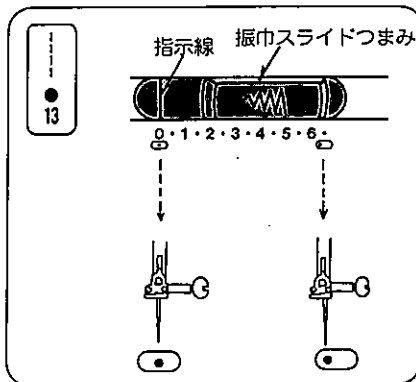
● 模様選択ダイヤル



ダイヤルをまわして、選んだ模様には赤いシグナルを合わせます。

* 模様選択ダイヤルをまわすときは、針を布からあげてください。
また、押え上げもあげてください。

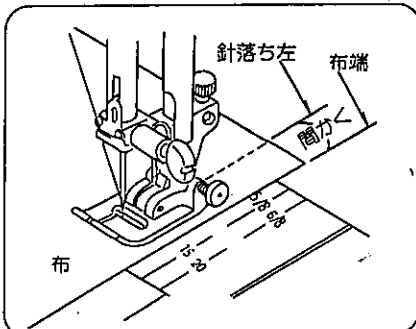
● 直線縫いの針落ち



模様13を選ぶと、振巾スライドつまみにより、直線縫いの針落ちは、中(●)と左(○)の間でかえることができます。

端ミシンステッチなどに便利です。

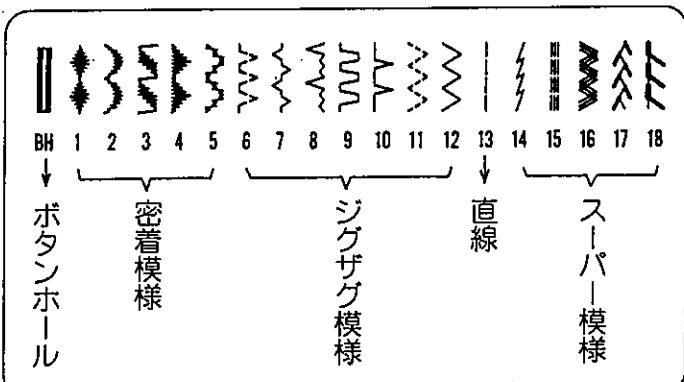
● 針板ガイドラインの利用



布端を針板のガイドラインに合わせて縫います。

* 数字は、針落ち左から布端までの間かくです。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

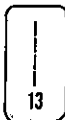


* スーパー模様を選択した場合には、送りスライドつまみの操作は必要ありません。

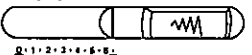
○直線縫い

《ミシンのセット》

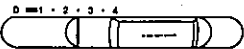
模様



振巾スライドつまみ



8・1・2・3・4・5・6・7・8・9



送りスライドつまみ 1.5~4

A基本押え

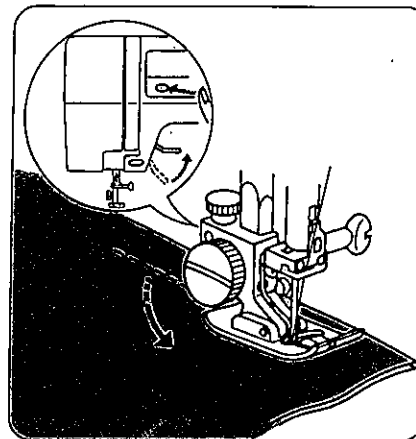


糸調子ダイヤル

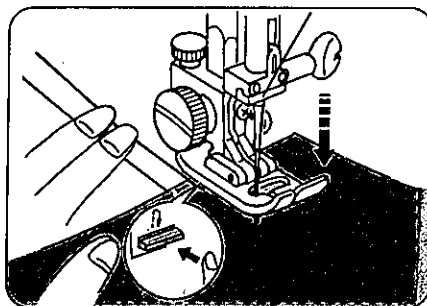
オート



* 振巾スライドつまみを (6.5) に合わせると、針落ちは左側に、 (0) に合わせると、針落ちは中央になります。



★縫い方向をかえるには
ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押え上げをあげます。針を布にさしたまま、縫い方向をかえます。
押え上げをさげて、ふたたび縫いはじめます。

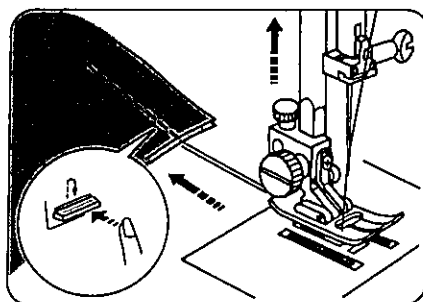


★縫いはじめ

糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆっくり縫いはじめます。

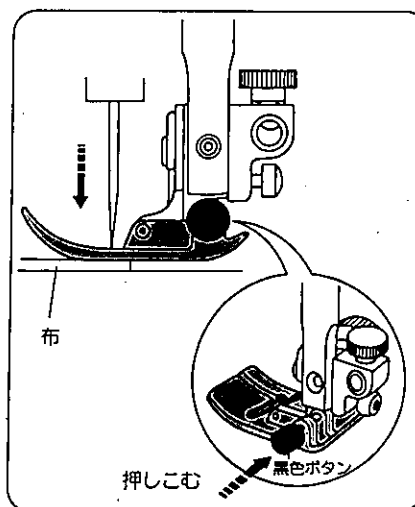
* 縫いはじめのほつれ止めは、返し縫いボタンを押しながら数針返し縫いをします。

26



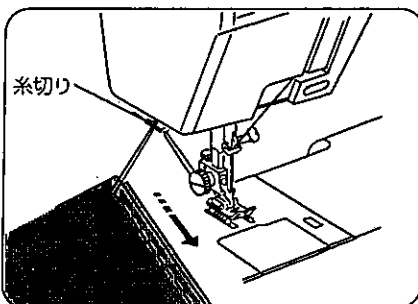
★縫いおわり

返し縫いボタンを押しながら数針返し縫いをします。
押え上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。



★厚手の布端の縫いはじめ

- ① 縫いはじめの位置に針をさし、基本押えの黒色ボタンを押こみます。
- ② ボタンを押したまま押え上げをさげます。
- ③ ボタンから手をはなし、縫いはじめます。



糸切り

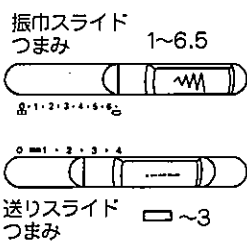
糸切りで糸を切ります。

押しこむ

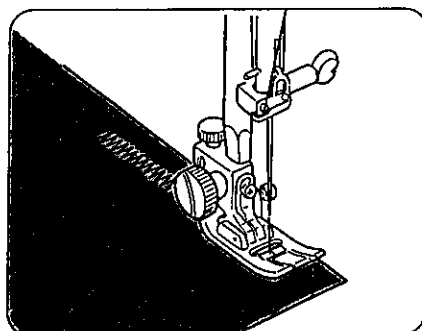
黒色ボタン

○ジグザグ縫い

《ミシンのセット》



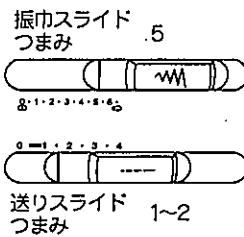
* 振巾スライドつまみを動かすときは、針を布からあげてください。



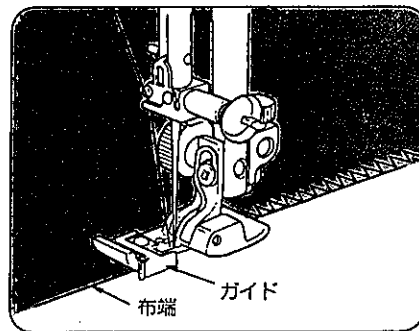
振巾スライドつまみで縫い目の巾を、送りスライドつまみで縫い目のあさを調節して縫います。

○ジグザグ縫い裁ち目かがり

《ミシンのセット》



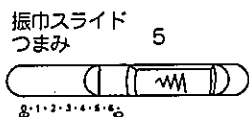
布端のほつれ止めとして広く利用します。



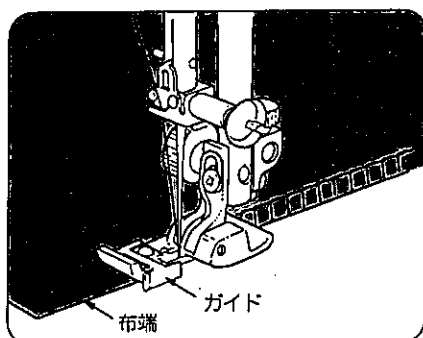
布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。

○かがり縫いステッチ

《ミシンのセット》



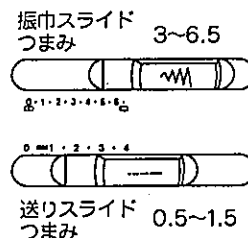
地縫いをかねたかがり縫いに利用します。また、布端のほつれ止めとしても使えます。
* 送りスライドつまみの操作は必要ありません。
* 目のとびやすい伸縮性の布や、目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります。



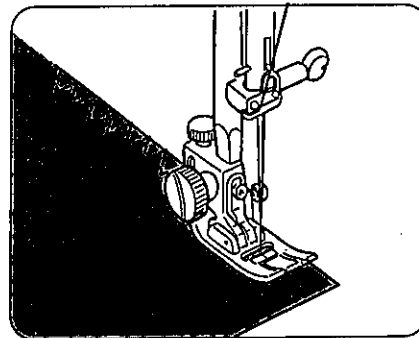
布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。

○トリコット縫い裁ち目かがり

《ミシンのセット》



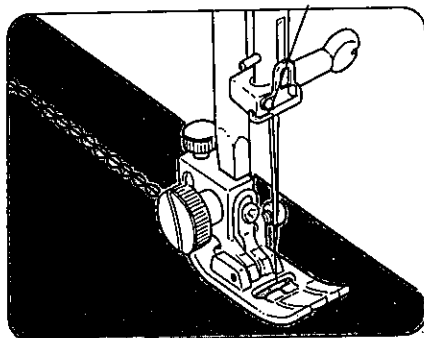
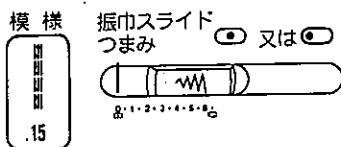
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の返し防止などに利用します。



布端を押えの右端よりやや内側にし、織り糸を1~2本残すようにして縫います。

○直線三重縫い

《ミシンのセット》



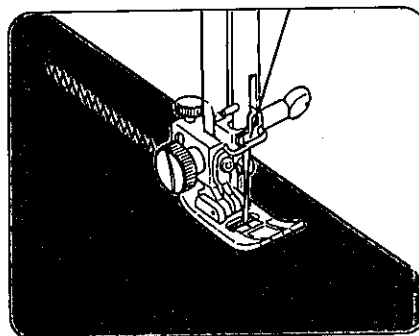
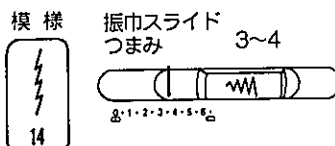
丈夫な縫い目なので、補強縫いに便利です。

* 送りスライドつまみの操作は必要ありません。

布が前後するので縫い目がまがらないように注意して縫います。

○直線状伸縮縫い

《ミシンのセット》



布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のある縫い目です。また、直線状なので縫いしろを割ることができ、ニット、トリコットなどの縫い合わせに便利です。

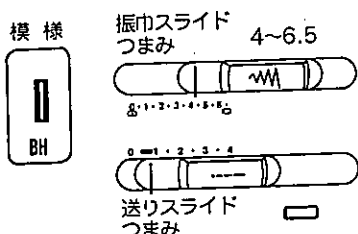
* 送りスライドつまみの操作は必要ありません。

縫い方は直線縫いと同じです。

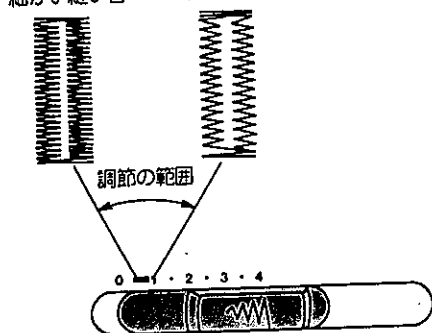
30

○オートボタンホール

《ミシンのセット》



細かい縫い目 あらい縫い目



* ボタンホールの長さは、使用するボタンをRオートマチックボタンホール押えのボタン受け台にはさみこむと自動的に決まります。

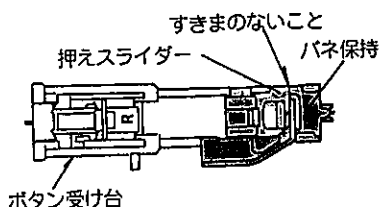
* ボタンの直径が2.5cmまで、ボタン穴かがりができます。

* 縫うものと同じ布で試し縫いをして、セットを確かめましょう。

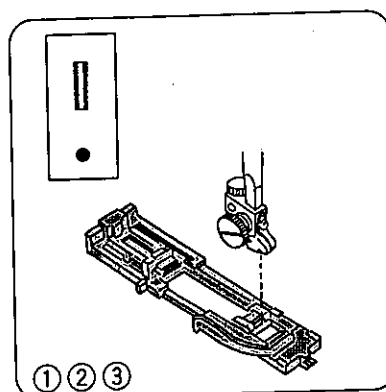
* 伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地をはってください。

《縫い目あらしの調節》

ボタン穴かがりの縫い目のあらしは、□の範囲で調節します。



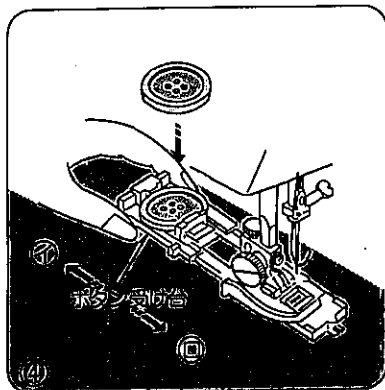
* 押えスライダとバネ保持の間にすきまがないことを確認してください。



- ① 上下停針ボタンを押して針をあげ、押え上げをあげます。
- ② 模様選択ダイヤルをまわして、BHシグナルを点灯させます。

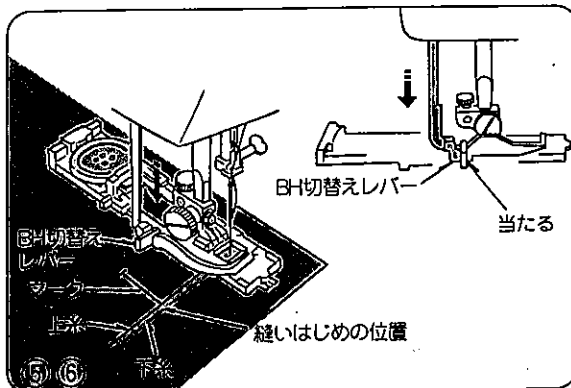
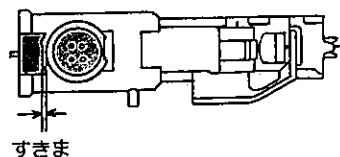
* 電源スイッチを入れて、はじめにボタンホール縫いをするときは、⑩(33ページ参照)の手順でリセットしてください。

- ③ R押えをとりつけます。

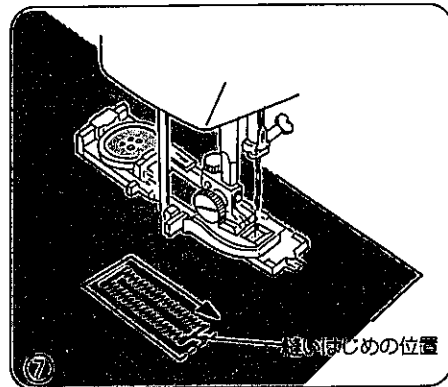


④ボタン受け台を①方向に引き、ボタンをのせて②方向に戻しはさみます。

*使用するボタンが極厚の場合は試し縫いをして確かめてください。すきまをあけて位置決めするとその分大きいボタン穴ができます。



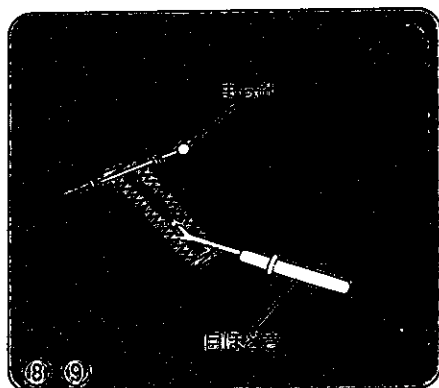
⑤BH切替えレバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。
⑥押え上げをあげて上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。布を入れ、縫いはじめの位置に針をさして、押え上げをさげます。



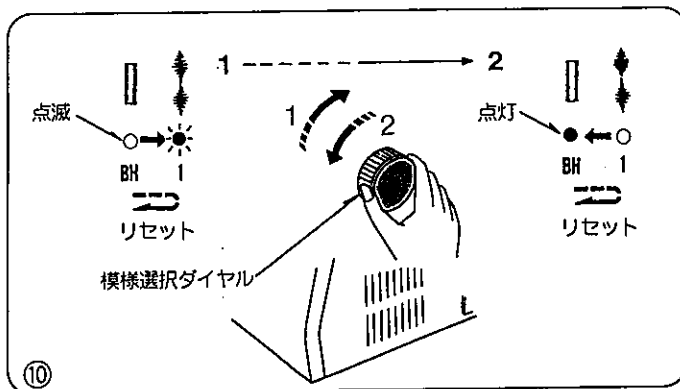
⑦自動的に止まるまで縫います。

*縫いおわると「ピッ ピッ」とお知らせ音が鳴り、シグナルが点滅します。

*縫っていく順序は、かんぬきと左側のボタン穴かがり縫いをし、かんぬきと右側のボタン穴かがり縫いをし、自動的に止まります。



⑧押え上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸をむすびます。
⑨かんぬきの内側にまち針をさし渡して、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。

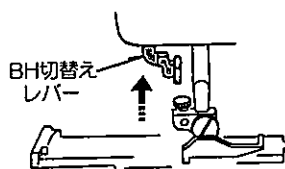


引き続きオートボタンホール縫いをする場合

⑩引き続きオートボタンホール縫いをする場合には、一度ダイヤルを“1”方向にまわし、の位置にして再び“2”方向に戻してリセットしてください。

この操作をするとシグナルは点滅から点灯に変わり次のボタンホール縫いのセットができます。

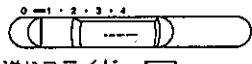
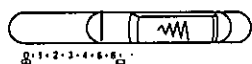
*ボタンホール縫いが終わったらBH切替えレバーを止まるまでいっぱい押し上げて戻してください。



《ミシンのセット》

模様

振巾スライド
つまみ 4~6.5

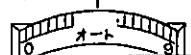


送りスライド
つまみ

糸調子ダイヤル

オート

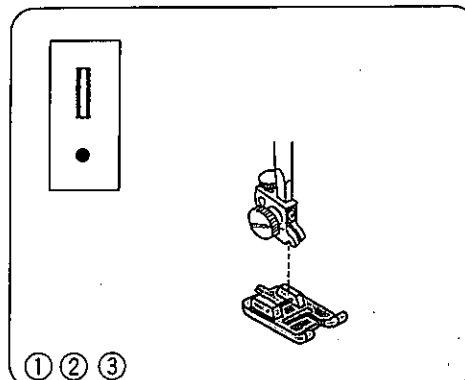
Bボタンホール押え



* ボタンの直径が2.5cmをこえる大きなボタン穴かがりに利用してください。

* 縫うものと同じ布で試し縫いをしてセットを確かめましょう。

* 伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地をはってください。

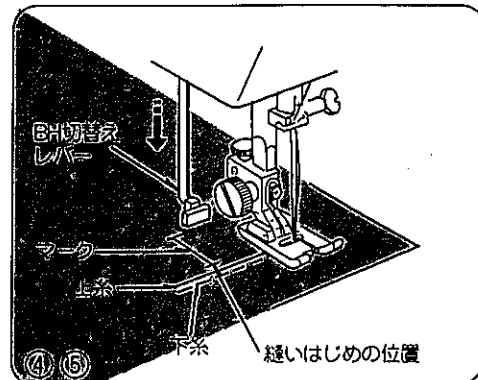


①上下停針ボタンを押して針をあげ、押え上げをあげます。

②模様選択ダイヤルをまわして、BHシグナルを点灯させます。

* 電源スイッチを入れて、はじめにボタンホール縫いをするときは、⑩(33ページ参照)の手順でリセットしてください。

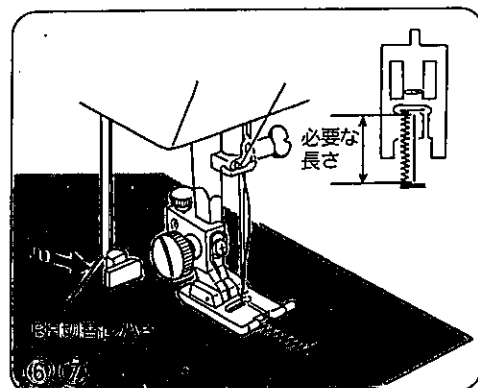
③Bボタンホール押えをとりつけます。



④BH切替えレバーを止まるまで、いっぱい引き下げます。

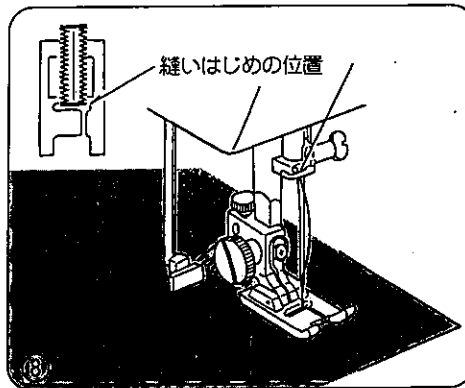
⑤上糸を押えの下に通し、下糸といっしょに横に引き出します。

縫いはじめの位置に針をさして、押え上げをさげます。



⑥スタート・ストップボタンを押して縫いはじめ、左側を必要な長さまで縫ったら、ミシンを止めます。

⑦BH切替えレバーを手前にひきよせます。

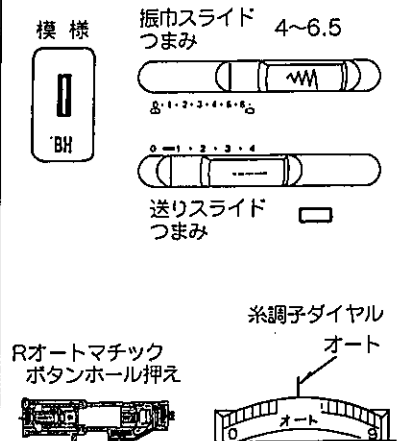


⑧スタート・ストップボタンを押して、縫いはじめの位置に針が戻ったらミシンを止めます。

* 穴のあけ方と、引き続きボタンホール縫いをする場合は、33ページをごらんください。

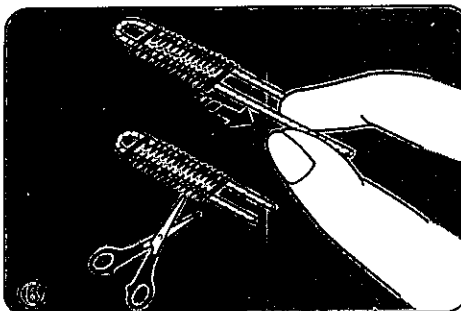
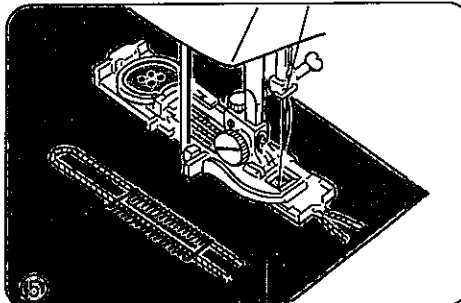
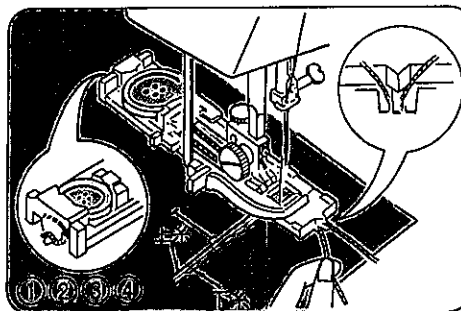
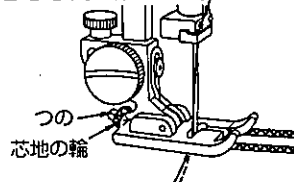
○芯入りボタンホール

《ミシンのセット》



* 縫い目の巾は、芯糸に合わせてセットします。

* ボタンの直径が2.5cmをこえるときは、Bボタンホール押えを使用して、下図の通り、芯糸をセットしてください。縫い方は、34~35ページをごらんください。



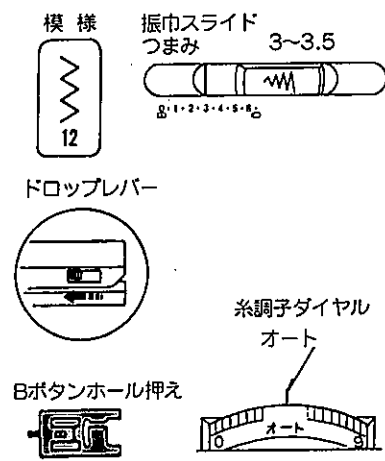
- ①上糸と下糸を横に引き出してそろえます。
- ②R押え前部の、右側切り込みに芯糸の一方の端をはさみ、芯糸を、押えの下から後ろに引き、つのに掛けます。
- ③つのに掛けた芯糸を、押えの下を通して、前部左側の切り込みに、しっかりはさみます。
- ④縫いはじめの位置に針をさして押え上げをさげます。
- ⑤スタート・ストップボタンを押して、オートボタンホールを縫います。縫い方は32ページをごらんください。

- ⑥左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

* 穴のあけ方と、引き続きボタンホール縫いをする場合は、33ページをごらんください。

○ボタンつけ

《ミシンのセット》

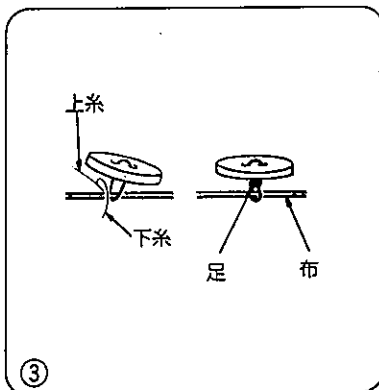
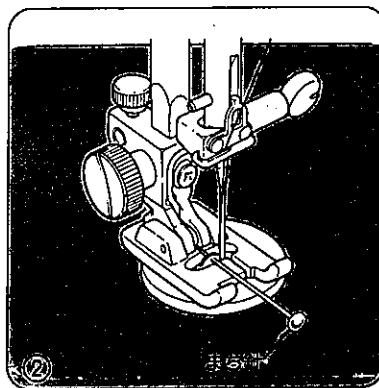


振巾スライドつまみは、ボタンの穴の巾に合わせて、セットします。ドロップレバーを左に動かして送り歯をさげます。(さげ方は、10ページをごらんください。)

* 送りスライドつまみの操作は必要ありません。

- ①はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりにようにします。

針目の巾とボタンの左右の穴が同じ位置にくるようにして押え上げをさげます。



- ②押えの中央にまち針をのせ、はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりにることを確かめます。

10針くらい縫ったら上糸・下糸を20cmくらい残して切ります。

* 縫いはじめの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

- ③上糸をボタンと布の間に引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布の間に引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻きつけて結びます。

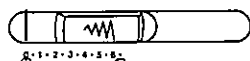
* 縫いおわったら、ドロップレバーを戻して送り歯をあげます。

○ファスナーつけ

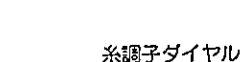
《ミシンのセット》



振巾スライド
つまみ



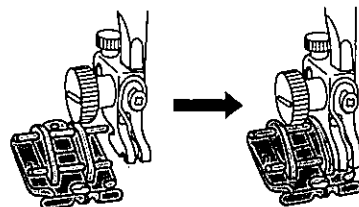
送りスライド
つまみ 1.5~4



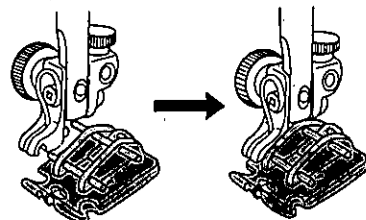
糸調子ダイヤル

オート

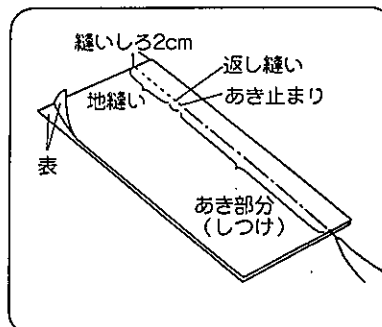
Eファスナー押え



○むしの左側を縫うときは、ピンの右を、ホルダーのみぞにとりつけます。



○むしの右側を縫うときは、ピンの左を、ホルダーのみぞにとりつけます。



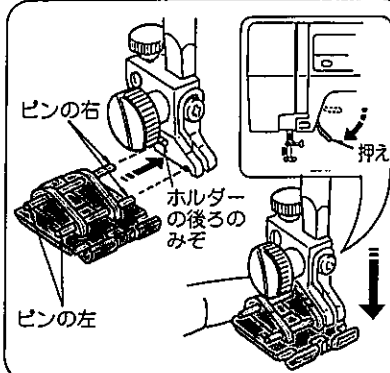
★準備

○布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをし数針返し縫いをします。

○あき部分は、しつけをしておきます。

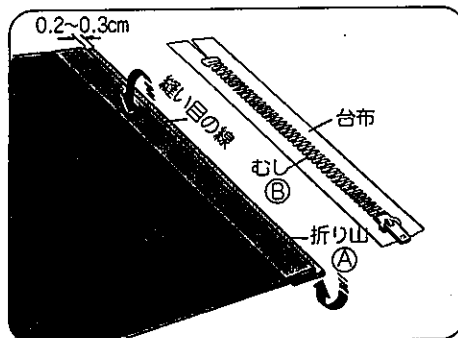
*しつけ部分は上糸調子を弱くして送りスライドつまみを最大にして縫い、糸を7~8cm残して切ります。

★ファスナー押えのつけ方



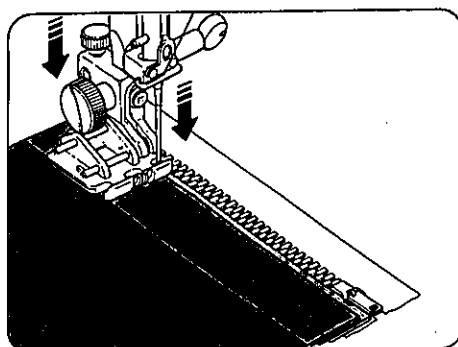
○押えの後ろのピンを押えホルダーの後ろのみぞに掛けます。

○指で軽くささえながら後ろのみぞにひっかけるようにして、静かに押え上げをさげます。

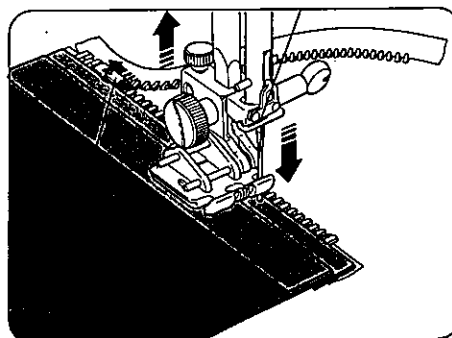


★縫い方

①上の布の縫いしろを、縫い目の線で折り返します。下の布の縫いしろは、縫い目の線から0.2~0.3cm出して、下に折り返します。ファスナーのむし⑥を、折り山⑦にそわせて、布をファスナーの台布にのせます。

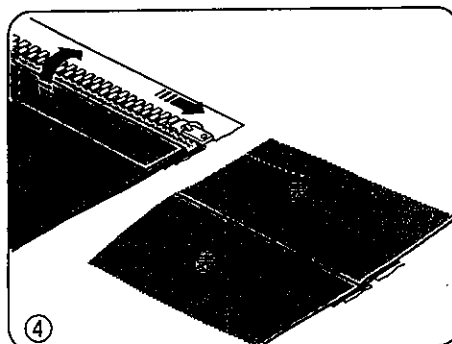


②押えのピンの右を押えホルダーにとりつけます。縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげて縫います。

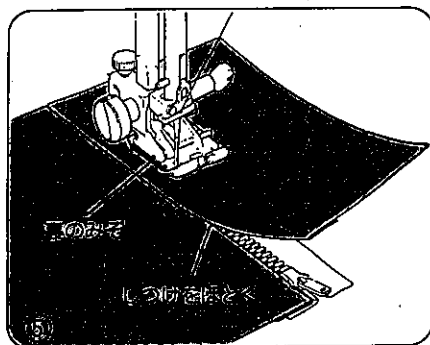


③押えがスライダーにあたる手前で、ミシンを止めます。

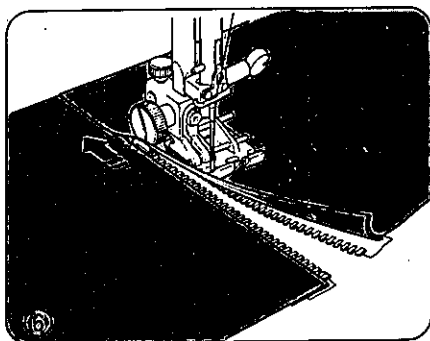
上下停針ボタンを押して針をさげ、押え上げをあげます。スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。



④スライダーをとじ、布をひらいて、表にします。

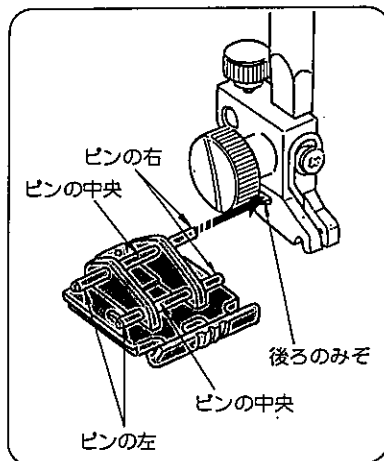


⑤ 押えのピンの左を押えホルダーにつけかえ、布の上から押えの裏のみぞにファスナーのむしをあてて縫います。
押えがスライダーにあたる手前でミシンを止め、上下停針ボタンを押して針をさげ、針を布にさしたままで押え上げをあげて、しつけ糸をほどこします。



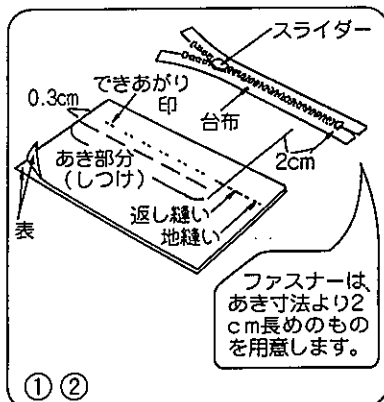
⑥ スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。

★コンシールファスナーつけ



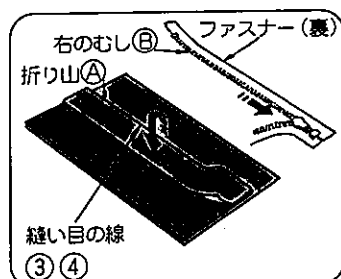
* ミシンのセットは38ページをごらんください。

* むしの左側と右側を縫うときは、ピンの中央に、ファスナーの台布の左側を縫うときはピンの右、台布の右側を縫うときはピンの左にとりつけてください。



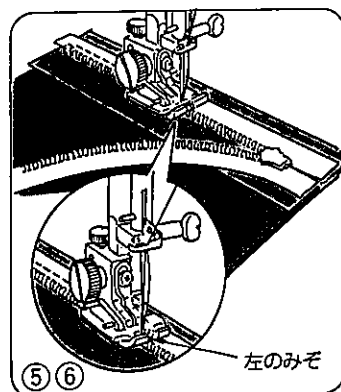
① 布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをし数針返し縫いをします。

② あき部分は、地縫い線(できあがり印)から、0.3cm内側に「しつけ」をします。



③ 上の布の縫いしろを、縫い目の線で身頃側へ折り返します。

④ ファスナーをひらいて、裏がえしにして右のむし⑧を、折り山Aにあてておきます。

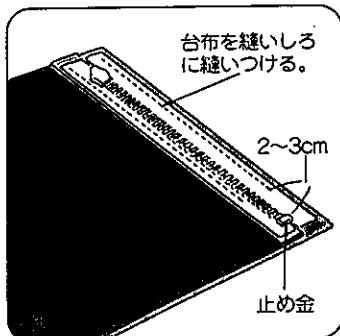
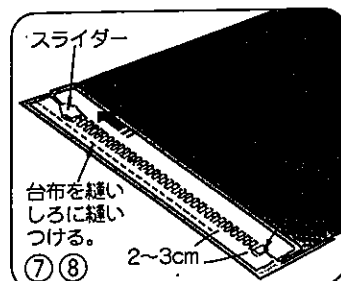


⑤ 押えのピンの中央を押えホルダーにとりつけ、右のむしを立てて押えの左のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように、押えをやや右によせて押え上げをさげます。

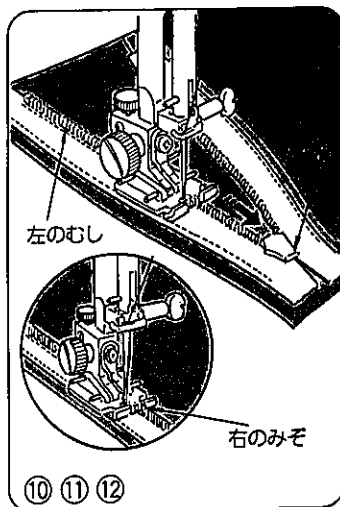
⑥ むしをおこしながら、あき止まりまで縫います。

⑦ 押え上げをあげて、スライダーをとじます。

⑧ 押えのピンの右を押えホルダーにつけかえ、ファスナーの下の方を右側に折り返して、左側の台布の端を縫いしろに、止め金から2~3cmのところまで縫いつ



⑨ 押えのピンの左を押えホルダーにつけかえ、ファスナーの下の方を左側に折り返して、右側の台布の端を縫いしろに、止め金から2~3cmのところまで縫いつけます。



⑩ 押えのピンの中央を押えホルダーにつけかえ、しつけをほどこし、ファスナーの下の方を右側に折り返して、スライダーを止め金までいっぱいひらきます。

⑪ 左のむしをおこして押えの右のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように押えをやや左によせて押え上げをさげます。

⑫ むしをおこしながら、あき止まりまで縫います。

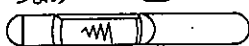
〇三つ巻き縫い

《ミシンのセット》

模様

13

振巾スライド
つまみ



糸調子ダイヤル
オート



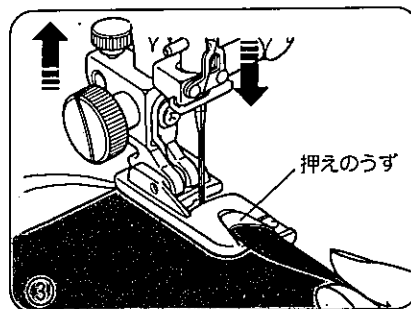
送りスライド
つまみ

1.5~4

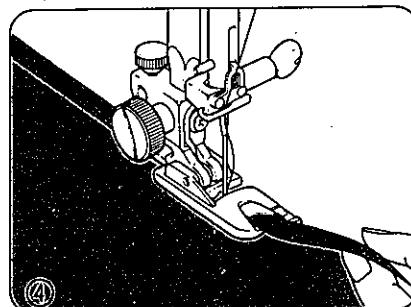
糸調子ダイヤル
オート



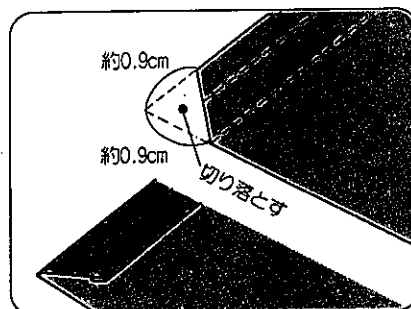
D三つ巻き押え



③上下停針ボタンを押して針をさし、押え上げをあげて、布の三つ折りの部分を開いて布端を押えのうずの中に巻きこみます。



④押え上げをさげ、布端を立てて、左寄りに引きぎみに持ちあげながら縫います。



★布端のしまつ

三つ巻き縫いの重なる角の部分は、布端を切り落として折り合わせ、厚みをうすくします。

①布端の長さ約6cmを、約0.3cmの巾で2度折りまげます。

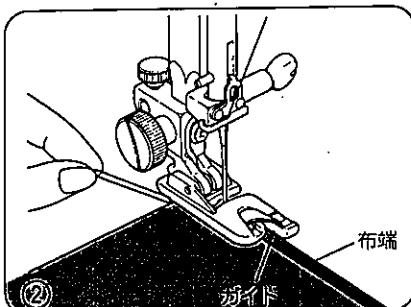
* 折り目のつきにくい布は、アイロンで折り目をつけておくと、縫いやすくなります。

②縫いはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。

上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて1~2cm縫います。

約0.3cm

①



42

〇くけ縫い (まつり縫い)

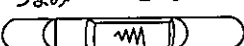
《ミシンのセット》

模様

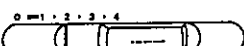
8

振巾スライド
つまみ

2~3



糸調子ダイヤル
オート



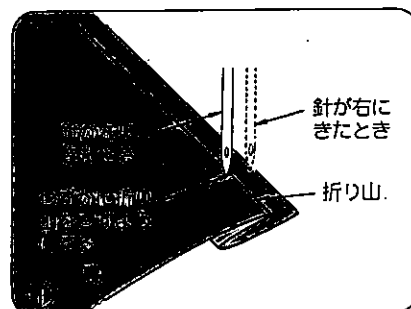
送りスライド
つまみ

1~3

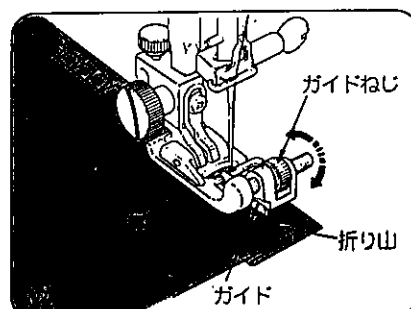
糸調子ダイヤル
オート



Gくけ縫い押え

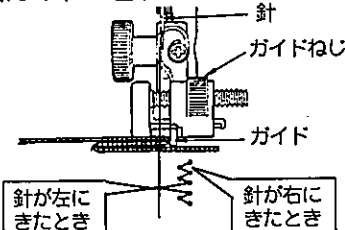


①針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて押え上げをさげます。

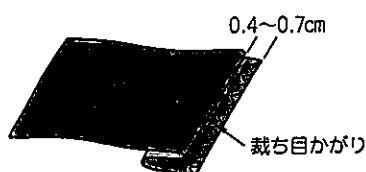


②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないように縫います。

《ガイドの合わせ方》

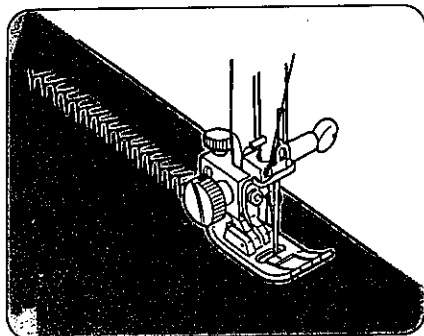
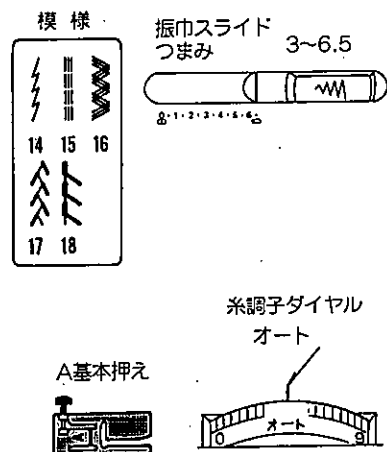


《布の折り方》



○スーパー模様縫い

《ミシンのセット》

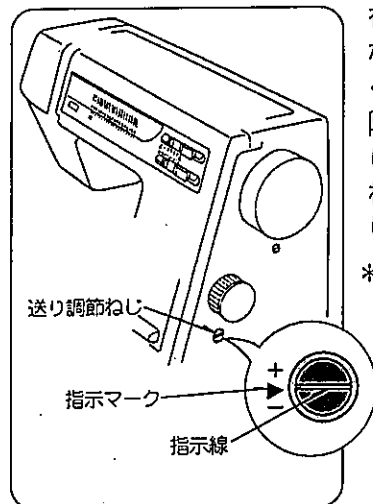


* 模様が整わないときは、右欄をごらんください。

* 送りスライドつまみの操作は必要ありません。

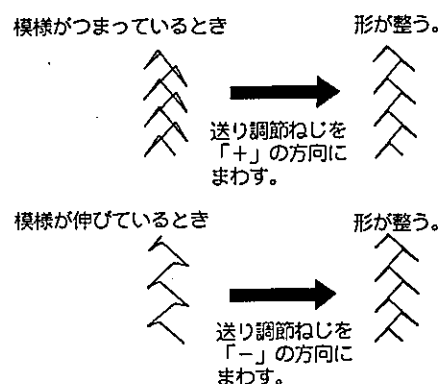
布が前後するので、縫い目がまがらないように注意して縫います。

○スーパー模様の形の整え方



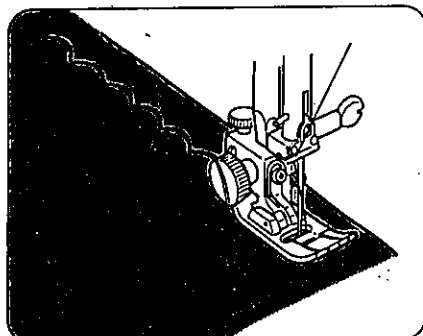
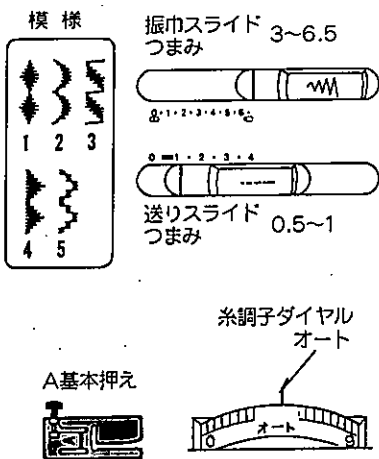
布の種類、厚さ、縫いの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際に縫うときと同じ条件で試し縫いをしながら、送り調節ねじでつぎのようにして調節してください。

* 標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しく縫える目安の位置です。



○密着模様縫い

《ミシンのセット》

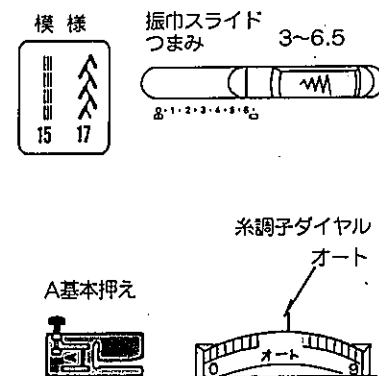


送りスライドつまみを合わせるとき、縫い目が細かすぎるとつまることがあるので、試し縫いをして調節してください。

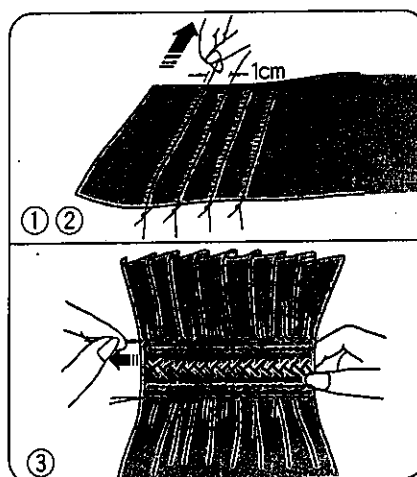
* 布が縮むときは、下に紙を敷くか、または、接着芯を張ると、きれいに仕上がります。

○スモツキング

《ミシンのセット》



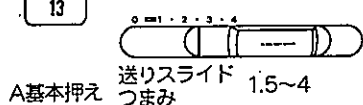
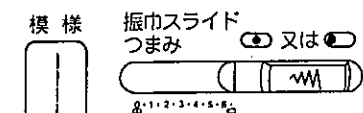
* 送りスライドつまみの操作は必要ありません。



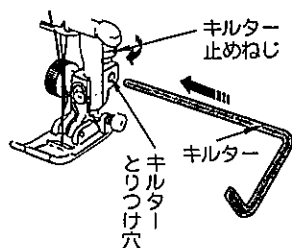
① 上糸調子を弱くして縫い目のあかさ0.3~0.4cmの直線を、1cmの間かくで数本縫います。
② 上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いて、ひだをよせ、上糸と下糸を結びます。
③ 直線縫いの糸と糸の間に模様縫いをしてから、直線縫いの糸を抜きとります。

○キルティング

《ミシンのセット》

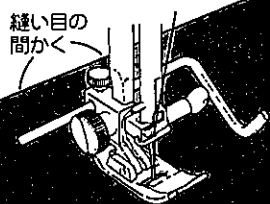


糸調子ダイヤル
オート



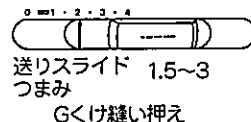
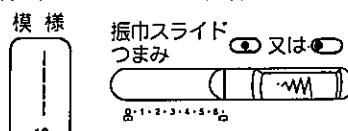
キルター止めねじをゆるめて、キルター (棒定規) を、とりつけ穴に入れ、縫い目の間かくに合わせて、止めねじをしめます。

キルターは、前に縫った縫い目をたどるのに使います。

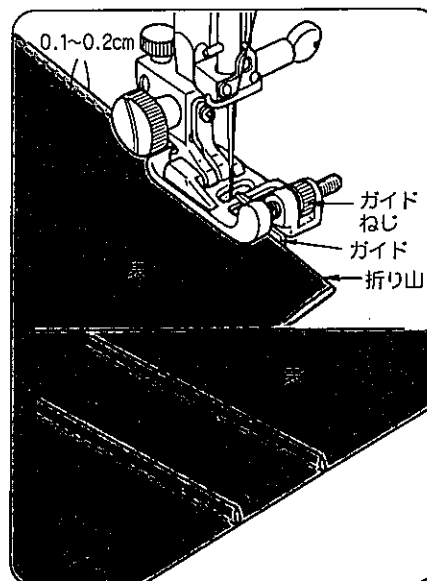


○ピンタック

《ミシンのセット》



糸調子ダイヤル
オート



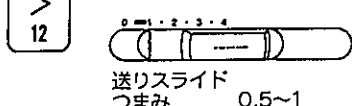
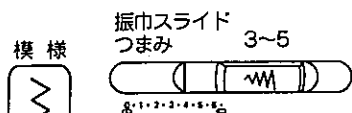
①はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1~0.2cm内側におりるように布を置いて、押え上げをおろします。

②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、縫います。

46

○アップリケ

《ミシンのセット》

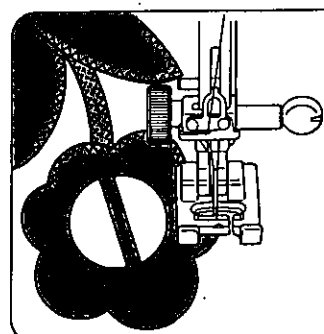
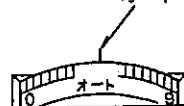


押え圧ダイヤル



Bボタンホール押え

糸調子ダイヤル
オート



アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。

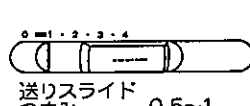
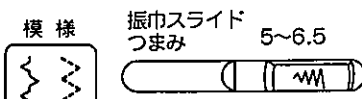
アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちを縫います。

* 急角度のところでは向きをかえるときは、針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると、きれいに仕上がります。

* 縫いおわったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻します。

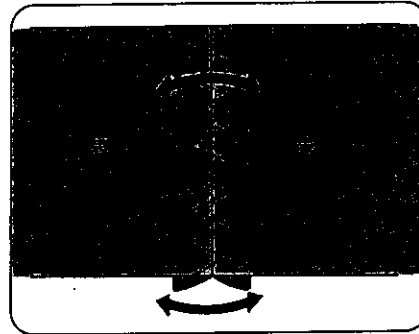
○パッチワーク

《ミシンのセット》



糸調子ダイヤル
オート

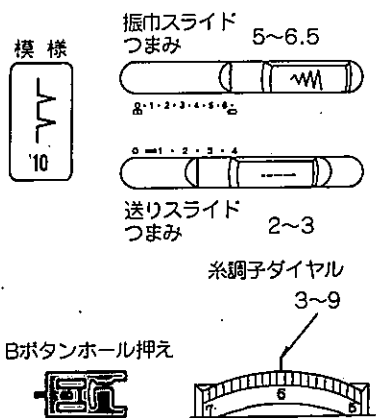
A基本押え



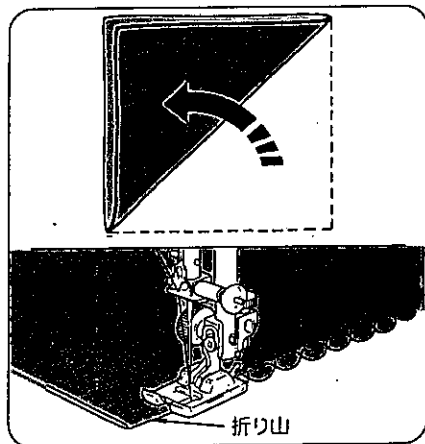
布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割ります。
布の表から、地縫いの線を中心にして縫います。

○シェルタック

《ミシンのセット》



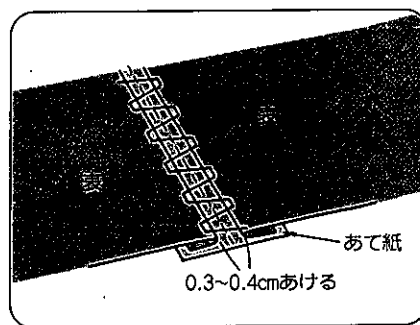
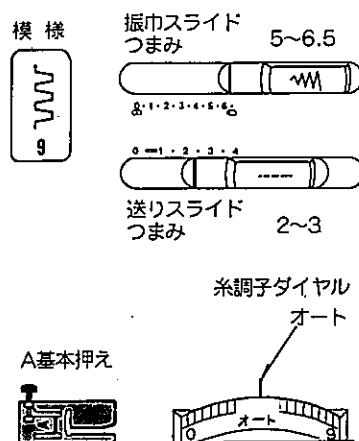
*糸調子は、シェルタックの山がきれいに
出るように強めに調
節してください。



- ①布をバイアスに2つ
折りにします。
- ②右の針落ちが、布の
折り山のきわにおり
るようにして縫いま
す。
- ③布をひらいて、アイ
ロンで山を片側に倒
します。

○ファゴティンダ

《ミシンのセット》



- ①布端と布端の間かく
を0.3~0.4cmあけ
て、下にあて紙をし
ます。
- ②布の表から、間かく
の中央を中心にして
縫います。
- ③あて紙をとります。

48

○ミシンの手入れ

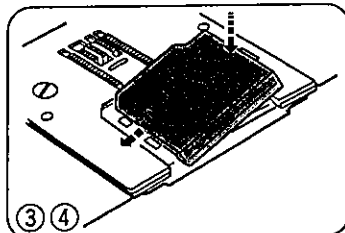
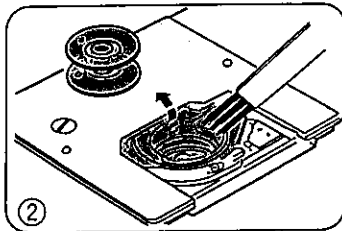
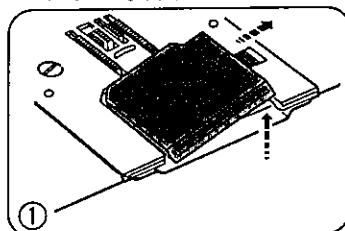
使用後は、いきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。

*手入れのときには、針をあげてから、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

*手入れのときには、説明されている箇所以外は分解しないでください。

*このミシンは注油の必要がありません。

★かまの掃除



糸くずや、ほこりがつくと、不調や故障の原因となりますので、
いつもきれいにしておきましょう。

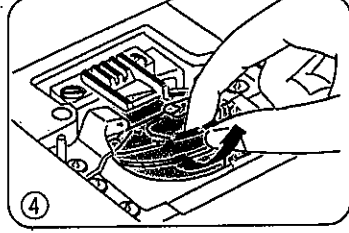
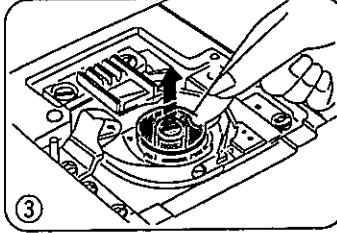
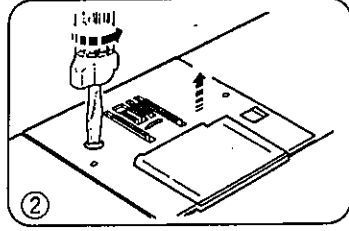
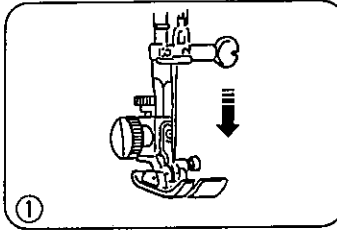
①角板開放ボタンを右にずらして角板をはずします。

②ボbinをとり出し、糸くずやほこりを、ブラシで掃除します。
*ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機
などで吸いとってください。

③ボbinを入れます。

④角板の凸部を針板にさしこみ、上から押して角板をとりつけ

★かまの分解



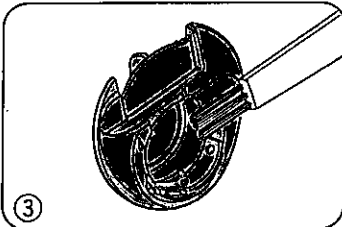
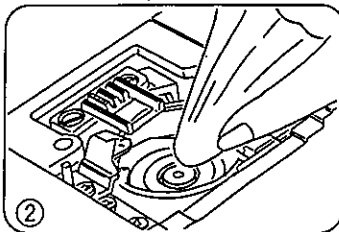
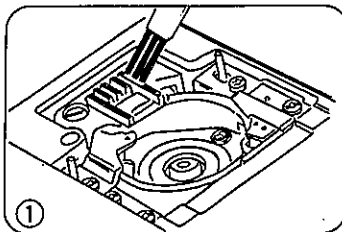
①針と押えをはずします。

②針板しめねじをはずし、針板をはずします。

③ボbinをとり出します。

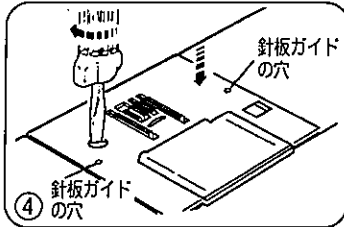
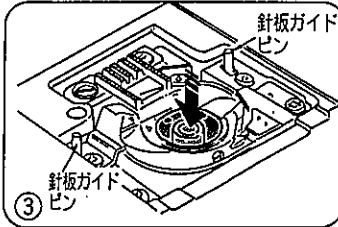
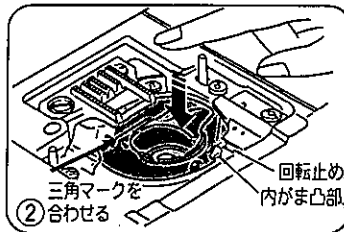
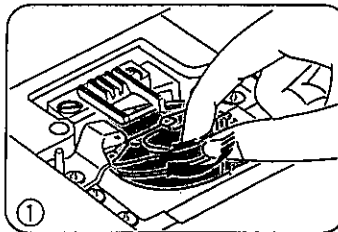
④内がまの手前を上引きながらはずします。

★かまと送り歯の掃除



- ①送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
- ②外がまの中央部を布切れて軽くふきます。
- ③内がまを、ブラシで掃除し布切れて軽くふきます。

★かまの組立て



- ①内がまをさしこみます。
 - ②三角マークを合わせて、内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
 - ③ボビンを入れます。
 - ④2か所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせて、しめねじをしめます。
- * 手入れがおわったら、忘れずに針と押えをつけてください。

○ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	①上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ②上糸調子が強すぎる。 ③針がまちがっていたり、針先がつぶれている。 ④針のつけ方がまちがっている。 ⑤縫いはじめに、上糸・下糸を押えの下にそろえて引いていない。 ⑥縫い終わったとき、布を向こう側に引いていない。 ⑦針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	18ページ参照 22～23ページ参照 14ページ参照 14ページ参照 20ページ参照 27ページ参照 21ページ参照
下糸が切れる。	①下糸の通し方が、まちがっている。 ②内がまの中に、ごみがたまっている。 ③ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	17ページ参照 49～50ページ参照 ボビンを交換する。
針が折れる。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまちがっていたり、針先がつぶれている。 ③針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 ④上糸調子が、特に強すぎる。 ⑤縫い終わったとき、布を向こう側に引いていない。 ⑥布にくらべて針が細すぎる。 ⑦布に針がささっているときに、模様選択ダイヤルや振巾スライドつまみを操作している。	14ページ参照 14ページ参照 14ページ参照 22～23ページ参照 27ページ参照 21ページ参照 24～25ページ参照
縫い目がとぶ。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまちがっていたり、針先がつぶれている。 ③布に対して、針と糸が合っていない。 ④伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針を使っていない。 ⑤上糸の掛け方がまちがっている。 ⑥押え圧が弱い。 ⑦品質の悪い針を使用している。	14ページ参照 14ページ参照 21ページ参照 21ページ参照 18ページ参照 10ページ参照 針を交換する。

調子が悪い場合	そ の 原 因	直 し 方
縫い目がしわになる。	①上糸調子が合っていない。 ②上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 ③布にくらべて針が太すぎる。 ④布にくらべて縫い目があらずすぎる。 ⑤押え圧が合っていない。 *特にうすい布を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。	22～23ページ参照 17～18ページ参照 21ページ参照 縫い目を細かくする。 10ページ参照
縫いずれがおこる。	①押え圧が合っていない。	10ページ参照
布送りがうまくいかない。	①送り歯に糸くずがたまっている。 ②押え圧が弱い。 ③縫い目が細かすぎる。 ④送り歯があがっていない。	49～50ページ参照 10ページ参照 縫い目をあらくする。 10ページ参照
縫い目に輪ができる。	①上糸調子が弱すぎる。 ②糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	22～23ページ参照 21ページ参照
ミシンがまわらない。	①コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 ②かまに、糸やごみがたまっている。 ③下糸を巻いたあと、糸巻き軸が元に戻っていない。(糸巻き状態になっている。) ④コントローラーを接続したままでスタート・ストップボタンを押している。	7ページ参照 49～50ページ参照 16ページ参照 7ページ参照
模様が整わない。	①送り調節ねじが合っていない。 ②指定の押えを使用していない。	44ページ参照 《ミシンのセット》参照
ボタン穴かがりがうましくない。	①布に対して、縫い目のあさが合っていない。 ②伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	31ページ参照 31ページ参照
音が高い。	①かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 ②送り歯に、ごみがたまっている。	49～50ページ参照 49～50ページ参照

仕 様	
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	55W/ ランプ3W
外形寸法	幅 40cm × 奥行 18cm × 高さ 30cm
重 量	8.5kg (本体)
使用針	家庭用 HA × 1
縫 速 度	毎分 700 回転

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承下さい。

お 客 様 相 談 コ ー ナ ー

- ★ ジャノメミシンでは全国350近くの直営支店で万全のアフターサービスをしております。この手びきに書かれている方法で直らないときは、最寄りの支店へご連絡ください。
- ★ お問合わせの際は、この手びきをお読みになりながらお電話くださると係員も故障の原因や個所がわかって便利です。
- ★ アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、本社お客様相談室または、下記の代表支店へ何なりとお申しつけください。

本社・お客様相談室 ☎03(3277)2315
☎104 東京都中央区京橋3-1-1

札幌支店 ☎011(261)5671
☎060 札幌市中央区南二条西2丁目NSビル

京都支店 ☎075(211)9132
☎605 京都市中京区丸太町通烏丸東入光り室町420
京都インベリアルビル

仙台支店 ☎022(221)3591
☎980 仙台市青葉区国分町3-5-32

広島支店 ☎082(228)5181
☎730 広島市中区幟町15-9

新潟支店 ☎025(228)6201
☎950 新潟市寄居町343-17

高松支店 ☎0878(31)1721
☎760 高松市常磐町1-4-10

名古屋支店 ☎052(733)5116
☎464 名古屋市千種区内山3-33-14

福岡西新支店 ☎092(846)7930
☎814 福岡市早良区西新2-6-2

大阪支店 ☎06(213)1635
☎542 大阪市中央区心斎橋筋2-6-9

熊本支店 ☎096(354)6523
☎860 熊本市上通り町8-15

本社移転のお知らせ

平素は弊社製品のご愛顧を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、この度、弊社は下記に本社を移転することとなりましたのでお知らせ申し上げます。

今後とも一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記

●移転先

住 所 〒193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地

電 話 お客様相談室 0120 - 026 - 557 (フリーダイヤル)
042 - 661 - 2600

受付 平日 9:00～12:00 13:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

ホームページ <http://www.janome.co.jp>

メールでのお問い合わせ customer@gm.janome.co.jp

●移転日

2009年7月6日

※旧住所 〒104-8311 東京都中央区京橋 3 丁目 1 番 1 号

旧電話 お客様相談室 0120 - 026 - 557 (フリーダイヤル) 変更なし
03 - 3277 - 2200

蛇の目ミシン工業株式会社

101013002